

然るに世の多くの母親は、斯かる神聖なる依託物を、或は玩弄物扱ひにして、手のつけられない様な我儘物に育て上げたり、又は厄介物扱ひにして、折角の材器を土中に埋めて了ふ様な事にして居るやうであります。それでは第一に神様の思召にも背き又社會のためにも、人類のためにも甚だ愛ふべき事でありませぬ故、周到なる注意を以て、他日は立派な役立をする所の人間になるやう之が養育に努力致さなくてはなりません。

要するに両親が眞に子供を愛する方法を知つて之を養育するならば、其の子供は人間として役に立つ者となることが出来るものであります。

一五 家庭教育と自然の驚くべき經濟（其の一）

家庭教育の理想

家庭教育の理想は身體の發育、知能の啓發、道義の涵養といふ此の三つの圓滿な發達を計るといふ事にあります。體育のみを重んずると、子供は卑しむべき下等動物のやうな人間になる恐れがあります。知育のみに偏すると、子供は病弱となり或は悪人となる恐れがあり、又德育のみを重んずる時は動もすると、身體が弱く無知で社會に活動する事が出来ないやうな人間になりませぬ。そして此の三つのは互に密接の關係を持つて居るもので、その中の一つが缺けて居る時は他のものは十分その効果を擧げる事が出来ません。例へば健全な身體を得るには、相當の知識を備へ、克己節制の力ある人でなければ之を能く

一八〇
することは困難であり、又身體の弱い爲に、働ける智慧を備へながら、活動する事が出来ず生涯廢物で終るといふやうな事もありますので、幼少の時から、此の三つのもの、圓滿なる發達を計らなければなりません。

赤坊時代の教育

母親が赤坊を寢床に寝かす時にはよく注意して身體の一方のみを下にするといふ事を避けないと、目に大少が出来たり頭が歪んだりするやうになりますから、床の向を取變へて平均させなければなりません。又少し大きくなつてからは手と足の運動に注意し、上半身の重量が、其れ程發達しない下肢に過分の重荷を負はせて、それが爲に足の發達を妨げて短くするなどといふ様な事のないやうに、又同時に手の運動にも注意して、その力量を増

進させるやうに計らなければなりません。日本の婦人は總體に足が短いやうでありますし、又自分の手は何れ程の物を持ち堪へることが出来るかといふ事に就て少しも自信が無いやうに思はれます。器械體操及び之に類似の遊戯は、手足の發達を計る上に最も適當と思ひます。

子供は幼少の時ほど五感の力が鋭敏でありますから、この機會を利用して之が發達を計らなければなりません。その中聴覺の練習が最も必要であります。幼少の時子供の守をする時に唱歌を歌ひ、寝かす時も寢床の傍に簡單な樂器を置くといふやうに致しますと、子供は自然に音樂に親しむやうになり、勞せずして音譜を學ぶことが出来ます。かやうにして高尚な音樂を味ふ時は、人格も自然と高尚になつて、將來何れ程大なる幸福を感受する事が出来るか、殆んど計り知られざるものがあります。ピスマークは政界を引退した後、

もし若い時に樂器の一つも習つて置いたならば、自分の生活はかくまで寂莫では無いだらうと嘆いたといふ事があります。それで五感の練習は、子供の生後間もなく始める方が宜しいので、總て能力は之を用ひなければ發達しませんが、聽覺の如き微妙なものは、成長してからは既に時機を失ひ、決して十分に發達させる事は出来ません。高尚な音樂は家庭の空氣を高尚に明るく致しますから、子供の教育には最も妙を得たものであります。その他視覺觸覺なども母親が遊戲に就て少し工夫し其の面倒を見てやれば、之を練習することは容易であります。

幼時に善良な習慣を

子供の教育は學齡まで放任して置いて、學齡に達してから學校に一任すれば、それで十

分であると考へて居る人もありますが、之は甚しき誤りであります。生れて六歳頃に達する迄が、子供は最も陶冶し易い時期で、この期間に將來望む所の人物の種子が蒔かれるのであります。穀物にせよ野菜にせよ之を蒔いて相當に耕作しさえすれば、收穫の量は蒔いた量に比較して遙に多いのが普通であります。人間の場合に於ても之と同様で、幼少の時に蒔いた種子は後に至つて驚くべき多額の收穫を擧げるやうになります。即ち行爲の種子を蒔いて習慣の收穫を得、習慣の種子を蒔いて人格の收穫が得られるやうになるからで、家庭教育の種子は、年と共に自然に發達して、驚くべき果實を擧げます。只要は善良な種子を蒔くといふことにあります。

善良な習慣は専ら母親の模範を子供自身が模倣し之を練習する所から出來上るのであつて、子供は模倣性に富んで居る者ではありませんが、善良な習慣を得るには子供の方にも克

己自制の力を要することがあります。然るに悪習慣は恰も雑草のやうに、別に之を助長しようとしなくとも、獨りで成長し、蔓延して、遂には善良な習慣までも之を根絶するやうになります。實に「一日の種蒔は十年の草取を要す」と謂はれますやうに、幼少の時母親が放任して適當時機に教育を施さないと、學齡までに悪い種子が蒔かれて生涯草取するも遂に立派な人格とする事が出来ないやうになる事もあります。

義務を重んずる習慣

幼少の時は如何に自分の好まない事であつても、子供は親の命令には服従しなければならぬ義務のあるといふ事をよく教へて置かなければなりません。又義務の遂行は人間の最も大切な仕事故、母が之に従事しつゝある間は、如何ほど母に遊んで貰ひたくても忍耐し

なければならぬといふ様に、義務に對して尊敬の念を持つことを教へるのは、他日子供自ら家のため國の爲に義務を遂行し得る時に、名譽と思ひ幸福と感ずることの端緒ともなりませう。

子供が幼稚園又は小學校へ通學するやうになつても、極めて短い時間、例へば十分でも十五分でも毎日靜かに家庭で勉強することが義務であるといふ事を教へるのは甚だ必要で、この際に眞の思想の發達も學藝の進歩も顯はれるのであると思ひます。大勢の學友と離れ單獨に修學することは確に有効と思ひます。尤もその修學は年齡に相當したもので、決して不適當にむづかしいものを授けてはなりません。その時間が終れば其れからは自由の遊戯をそれからそれへとさせて、醇熟たる子供の精力を無駄に浪費したり、無聊に苦しめたり、退屈から不機嫌に陥らしめる事などの無いやうに指導してやらなければなりません。

そして其の結果身體上、知能上、道義上の練習に役立つやうに氣をつけたと思ひます。

子供の志望と母の義

「門前の小僧習はぬ經を讀む」の譬のやうに、子が父の職業を繼ぐことは、多くの場合父子互に理解し、信頼を得るばかりでなく、共に協力さへする事の出来る愉快がありますから、私は二人の子供になるべく法律に興味を持たせたいと思ひまして、法律家となるに必要な條件を鳩山(亡夫)に尋ねました所、法律の用は、生きた人間の極めて複雑な行爲に之を適用して、その判断を誤らず、適切な最善の案を即座に考へ出し實施する事が必要である故、頭腦が明晰で機敏でなければならぬと申しました。これは裁判所などで相手の辯論を聞きながら、自分に有利な點を即座に考へ出さなければならぬ必要があるからであらうと、私は首肯いたしました。

そこで私は如何にしたならば頭腦を明晰にする事が出来るか、餘り大食をすれば胃に血液を集注して腦の働きを鈍らせるだらうと思ひ、食物の材料に注意し、副食物に滋養物を選び、米飯は二椀と定め胃の擴張を豫防しました。又數學は考を練るものであり、且つ一切曖昧を許しませんから、私は算術の問題を子供が自分の頭で之を考へ之を解くことが出来るやうに、易より難に簡單より複雑に秩序を立て、永い間練習させました。小學校で四則を終つて分數に入る前など四則雜題を随分澤山練習させました。その結果算術に非常に興味を持つやうになり、やがては代數や幾何も大好きになりました。

克く學び克く遊べ

西洋の諺に「仕事ばかりして遊びの無い子供は愚鈍になる」と申しますが、従来日本の學生は終日机に向つて居る悪習慣があります。これは頭腦を明晰に敏捷にするに有害であると考へまして、私は有益無害の遊戯を多方面に亘つて奨励しました。又一働く間は働け、遊ぶ間は遊べ」といふ格言もあります。之は頭腦を機敏にする方法であると考へ、勉強する間は其れに全精神を集中し、又遊ぶ時はそれに向つて精神を注ぐといふやうにし、怠惰の習慣を排斥しました。高尚有益な遊戯を多方面に奨励した事は、之が上品な交際道具となつて、今日も二人とも大に便宜を感じて居ります。かゝる方法を探つて爲でありませうか、鳩山も二人とも法律家に極めて適當して居る事を私に洩しました。

さて一郎が愈々高等學校へ入學しました際も、數學が得意である故、工科へ入つた方が可からうと勧め下さつた方もありましたが、本人は躊躇なく法科を専門に選びました。

一年差ひの秀夫が又翌年高等學校へ入學した際も、本人は數學が好きな上に、文學にも少からず趣味を持つて居りましたけれども、矢張り、進んで法科に向ひましたので、鳩山も非常に満足いたしました。

私は世間の母親が此の子は何が好きだとか嫌ひだとか申されますが、それは天性もありませんが、「性相近く、習相遠し」で、母が熱心に教育すれば、母親の好むものは、大概子供も心から好むやうになるものと思ひます。その他自信力、廉直、誠實、勤勉、謝恩等の徳を何れも習慣的に養成し、惡癖の襲來を出来るだけ豫防いたしました。

重大なる母親の任務

米人マーデン博士は「吾々は二十五歳又は三十歳になれば、其の後は大なる變化なく、

たゞ出立した道を進むのみである。換言すれば善良な習慣が二十五歳又は三十歳になれば既に固定する故、それから後は先づ悪習慣に陥る事は稀である。同様に悪習慣の固定した人は、この年齢になつて初めて良習慣を養成する事は全く困難な事である」と申して居ります。又幼少の時は良習慣も悪習慣と同様に容易に習得して、而も悪習慣と同様に固定することが出来るのは人生の快事であると申されました。

天然の法則は私共の努力如何によつて、我子を或程度までは向上進歩させることが出来るやうになつて居ります。換言すれば母親の努力如何によつて子供は廢物とも必要物ともなります。之を思ふと母親の任務は國家の干城たる軍人よりも、一國の樞機に參與する政治家よりも更に重要なりと、前の米國大統領ルーズベルト氏の言はれたのは、決して過言ではあるまいと思ひます。

一六 家庭教育と自然の驚くべき經濟 (その二)

無くて七癖

家庭教育は子女の人格を作るのが目的であり、人格は正しい習慣をつける事によつて作られますから、幼時の習慣のつけ方如何によつて、人の一生の幸不幸は分れることになり

ます。習慣は言ひ換へれば癖といふことでありますが、癖といへば普通悪い意味に取られて居ります。『無くて七癖、あつて四十八癖』で、人には色々の癖があります。爪を噛む癖の人があります。是などは考へるまでもなく不潔不衛生な事で、他人にも厭な感じを與へます。或男は前頭に毛が無いのですが、是は本を讀む時にその毛を指で捲いて引つ張る癖

があるからで、さうしなければ本を讀んでも分らず、讀んで居る時には我れ知らず毛を抜いて居る爲であるといふやうな事もあります。ドクタージョンソンは道を通る時郵便函に觸る癖があつて、其れに觸れないと氣が済まず、いら／＼して來るので、態々戻つて來て其れに觸れて行つたといふ事でもあります。演説をする時に顎や髭を撫で廻す癖、手で洗濯の眞似をする癖、肩をすくめる癖などいろ／＼あります。

なぜ斯ういふ癖がつくかといふと、幼少の時不圖した機會から間違つた事をした時に、母なり側に居る者なりが適當な注意を與へて、其れを矯正する事を怠つた爲に、何回も繰返すやうになり、遂には習慣となつて固定し、大きくなつて見ると自分の知らない澤山の癖がついて居るといふ様になるからであります。然しこの癖のつくといふ事は決して悪い事ではありません。悪い事で無いばかりか、自然が私共に與へた大なる恩恵の一つであります。

ります。

習慣が總ての仕事の基礎

カーライルの申しましたやうに習慣は其のつけ方一つによつて、私共に取つて最高の力ともなり、又悲惨な弱點ともなる誠に意味深き人間性の法則であります。初めての道を行く時は非常に注意し努力して漸く目的の所に達するのでありますが、二度目の時には前の足跡が招いて呉れるので他の何の道を行くよりも容易に安樂に行く事が出來ます。三度目になれば尙一層安樂に確實に進む事が出來、遂には度重なるに従つて心を勞せずとも其の道を歩む事が出来るやうになります。かやうにして習慣は何んな仕事にも其の第一の基礎を作る事になるのでございます。

私共には習慣と模倣の力がある爲に進歩といふ事が出来るので、人類が千年も二千年も経験して漸く得た財寶をこの力によつて僅かの間に得る事が出来ます。若し之を私共銘々が最初から行り始めるといふ事であり、又何度繰り返しても初めと同じやうに努力しなければならぬといふ事であつたならば、生涯かゝつても何一つ仕事を仕遂げる事は出来ずまい。習慣と模倣とは總ての見習ひ、實習、實行及び研究の出来る根元であります。

時既に遅し

合衆國にミシシッピ河といふ非常に大きな河がありますが、千八百八十三年五月に其の堤防の一部に小さな穴があきました。人が之を氣づいた時には砂の二三袋も入れれば直ぐ其れを塞ぐ事が出来たのですが、數時間捨て置いた爲に、穴は次第に大きくなり遂に

は其れを堰き止めた者には百萬圓の賞を與へるといふ事までしたのですが、誰あつて其れを何うする事も出来なかつたといふ事でありました。

またナイヤガラに初めて吊橋を架けた時には、一方の岸から風を揚げて其れを他の岸に落とし、その糸へ一番初めには稍太い糸、次には綱、次には一層太い綱といふやうに、次第にその太さを増し、最後にケーブルを結びつけて之を他の岸へ渡し、之によつて橋を架けたといふ事でありました。此等の例は初めは小さくとも後には恐るべき力になるといふ事を示したものと思ひます。

ナイヤガラ河といふのは、イリー湖からオンタリオ湖に通ずる間の流れで、丁度合衆國と加奈陀との境をなして居ります。中程に島があつて河が二つに分れ、其の邊は流れは緩かであり、水も澄み輝いて居りますが、兩方合する邊から急に激流となり、其の下が有名な

ナイヤガラ瀑布となつてオンタリオ湖に注いで居ます。夏になるとよく此の河で船遊びを致しますが、船が少し下流に行くと、岸からオーイオーと呼び、激流に近づくから注意するやうにと警告を與へます。然し船中の若き人々は、吾々も激流のある事は知つて居るが、其れに乗るやうな愚なものではない。其れに近づけば直ぐ舵の方向を變へて岸に寄るからと言ひ、平氣で酒を飲み乍らズン／＼下つて行きます。間もなく又岸から注意を與へ、激流は御身等の直ぐ下にありと叫ぶと、客は笑つて、吾々は今酒を飲んで愉快に騒いで居る所である。人はその日の苦勞だけで充分で、未來の爲になど心を煩はす事は出來ない。愉快はたやすく飛散し易い故、之を捉へた時は容易に放さない様にしなければならぬ。まだ激流の危険から脱するには充分時があると云つて居ます。

暫くすると又岸からオーイ／＼と叫びます。何事かと聞くと、氣をつけよ、氣をつけよ、

激流は今御身等の直ぐ下にあり、御身等はその周圍に泡立つ水を見よ、如何に早く船の流れつゝあるかを見よ、上舵を取れ、強く漕げ、鼻や口より出血し、血管が額に鞭のやうに太くなるまで漕げ、橋を立てよ、帆を掲げよと聲を限りに呼びますが、ア、既に遅し、船は叫び吠え呪ひ罵りつゝ激流の中に吸ひ込まれて仕舞ひました。かくして岸の人々が注意を與へるにも拘らず、毎年多くの人が死ぬのであります。

大抵の人が、これ位はまだよい、愈よ危険に近づいたら其の時に止めようと言ひながら、つひ其の危険に陥るので、先へ進んでは止めようと思つても、習慣の力で打ち勝つことがなかく困難で、急に止められるものではありません。

最大なる母の恩恵

誘惑に陥つた人の多数は、餘りに誘惑が不意に襲つて來たので、考へる暇もなく、悪い氣なしにつひ其れに捉へられる様になつたと言つて辯解いたしますが、然し事實は其の事の起つた時に初めて誘惑に遭つたのではなくて、其の以前から既に之に陥りつつあつたのであります。小さな誘惑は充分考へる時間のある時に絶えず襲つて居たのであります。其れに抵抗しなかつた爲に、遂には如何ともする事の出來ないやうな大きな誘惑に捉へられる事になつたのであります。もし初めから其れに抵抗して居たならば、誘惑は次第に其の影を潜めますが、平生之を追ひ拂はうとしない爲に、次第に其の力を増して來るので、つまり自ら之を呼び寄せるといふ事になるのであります。

それ故子供を育てるには平素から善い習慣をつけて置くといふ事が最も大切な事であり、善い習慣も色々ありますが、その主なるものを挙げると、(一)朝起きる時間を一定

する事、(二)約束した事は必ず遂行する事、(三)幼小の時から慇懃に挨拶する事、(四)物を秩序正しく規律あるやうにする事、(五)語を正確に言ふ事、(六)正直を嚴守し、これ位は可いといふやうな事の無い事、(七)決して怠けないやうにする事などであり、固く此等の習慣がついたならば、それこそ海山換へ難き母の恩恵で、子に取つてこれ程有りがたく價值のあるものはありますまい。

習慣の驚くべき經濟

熟練した音楽家がピアノを弾く時には、一秒時に平均二十四の音譜を弾く事が出来るさうであります。そして一つの音譜を弾く毎に、先づ指で上から抑へて之を下げ、次には緩めて之を上げ、次に他の音譜へ移るのでありますから、指は少くとも一音譜に就て三つの

働きをしなければなりません。すると一秒時に七十二の變化をする事になります。其の上
に指の觸れる場所、加へる壓力、移り行く速力まで少しも間違はないやうに、脳髓は一々
之を命令し、指は又一々之を報告しなければなりません。これ程複雑な敏活な働きを無し
ながら、尙能く熟練なピアノニストは他人と熱慮を要する大切な話をする事が出来ます。

なぜかういふ事が出来るかと申しますと、これ程複雑な事でも、覺える迄は非常に骨が
折れますが、一旦覺え込んで仕舞へば、腦を使はずに習慣の力で其れを弾く事が出来るか
らであります。私共の日常の仕事は、總て初めの間は努力と注意を要するが、慣れるに従
つて其の過半は腦髓を用ひずに習慣の力で之を爲す事が出来ます。人生の仕事の大部分は
此の力のお蔭で、こゝが自然の驚くべき經濟といふべき所であります。

農夫や女工などの働いて居る所を見ると、往々歌を歌ひながら仕事をして居りますが、

あの歌は仕事の妨害にならないのみか、却つて之を助ける位であります。技藝其の他婦人
の家庭に於ける仕事は大抵千遍一律なもので、一旦之を習得する時は習慣の力で左程頭を
使ふものではありませんから、其等の仕事をしながら、尙他にいろ／＼の用事を達するか、
有益な事を考へるといふやうにしたならば、家庭に於ける婦人の能率は今より遙に高める
事が出来ようと思ひます。

要するに人間の生涯は各々の小習慣が完全に作られるか、又は不注意に作られるかに従
つて、或は傑作ともなり、或は駄作ともなるものでありますから、人の母たるものゝ任務
は重大なる事を自覺し、之に對する準備を一日でも怠つてはなりません。

後編 二子を育てし二十年間の苦心

一 結婚より出産まで

懐妊中の注意と胎教

これから私が多年實行して参りました家庭教育上の経験と、その間の苦心とを順序を追うて詳しく申し上げます。

私は明治十四年の十一月に結婚して、翌年の春、懐妊いたしました。

總ての子供は、懐妊中の母の心に似るものであると聞きましたから、私は何うかして小さい人間になる様な兒を産みたくない、鳩山の様に大きな人間、愉快な人間、立派な人間

になる様な兒を産みたい。成るべくは英雄にもしたい、拗れない、すらくとした、自然に大きくなる様な兒を産みたいと、一郎の懐妊中は、随分種々と注意をいたしました。

其處で私は、女中は居つても掃除や雑巾掛などをして、適度の運動を致しました。併し其の他には別にこれと云ふ仕事もなし、交際も稀でありましたから、閑暇は澤山ありました。けれど時間は誠に尊いものですから、此の閑暇を少しも徒費せず、成るべく精神が爽かになり、心が大きく愉快になる様な書物を選択して、讀書し勉強いたしました。或は那翁の如き英雄傳も讀みました。

併し、罪惡の事を書いた本や、悲しい事を書いたものは一切避けました。これは、罪惡に染み易い兒、人を疑ふやうな小人になる兒、沈鬱で憂鬱な兒を産みたくないと思つたからでございます。

西洋で、夫人の室内に、圓滿な美しい神の像を安置したり、英雄の肖像を額にして懸けてあるのも、その夫人の心に此等の美しい面影、清い精神、秀でた姿を深く刻み込ませて、その胎内の兒をして、之に感化させる爲だと申します。

私も何うかして理想の兒を産みたいと、何かに就けて注意して、無益の心配を避け、悲哀に満ちた雑談に耳を掩ひ、憂鬱の漲れる書籍を遠ざけて、一向精神を爽快に、心を廣く大きく、清く持つやうに心懸けました。

私は此の如く注意して居る間に、明治十六年の一月別に酷く苦しみもせず、安々と男の子を産みました。これが即ち一郎でございます。回顧すれば學生々活を卒へてから四ヶ月目に結婚し、結婚してから一年と六ヶ月目に一人の子供の母となつたのであります。

育児の一任を歎願す

私は、子供を育てる事に就いては、一つの理想を有つてをりました。

元來私の父母は、私を非常に愛して呉れました。同胞は、男一人に女は澤山でございましたが、その中で、私が末子でございましたから、末子は可愛いと云ふ俚諺の通り、餘りに私を愛し過ぎました。私は斯う云ふ育児法は、成長後困る事があると深く感じてゐましたから、私の子供には、何うかして私の理想を實行して見たいと、常々心に念じてをりました。

其處で、鳩山にも又姑にも、子供だけは私の思ふ通りに育てさせて下さい、その代りには、他の事は何でも仰しやる通りにいたしませう、従ひませうと歎願して、その許可を

得ました。而して 茲に長年理想として來た育児法を、實行する權利を得ました。

二〇六

後年になりまして、子供が大學へ行くやうになりましたから、初めて姑なども私の育児法に感心して呉れまして、親戚の子供などへも、私の経験して來ました育児法を、頻りに勧めるやうになりました。

育児に就いて一切一任されました私は、何うかして子供に善い習慣を付けたいと思ひまして、室内を温めて風邪を引かぬ丈の豫防して、七夜前から兩便を便器で遣るやうに致しました。三歳兒の魂百までもと申しますが、習慣と云ふものは、産れた時から付くものですから、此の子供には何うかして悪い習慣を付けたくないと思つたからでございます。斯うして、産れた時から便器で遣つてをりますと、習慣は誠に恐ろしいもので、必ずグスグスと言つて、兩便を教へるやうになります。夫れ故、他の子供の様に兩便を洩す事もなく、いつも氣持が良いやうで御座いました。

斯くその度毎に兩便を教へる様に致しますと、着物を濡らす愛ひもなく、何時も衣服も身體も乾いて居りますから、衛生上から見ても宜しうございます。之を若し教へないと、時に濡れたのを知らずに捨て、置く事もありますから、病氣の原因になる場合も出來て來るものでございます。

母の恩愛と威嚴

總じて西洋人の子供は、非常に母を尊んで母の言葉に能く従ふ傾向があります。

私は子供を何うか私の思ふ通りに教育して見たいと思ひました。夫れには、子供が私の云ふ事は何でも善く聞くやうな習慣を付ける必要があります。此の習慣を養ふ爲には、

二〇七

先づ第一に兒に對する母としての恩愛と同時に威嚴を保たねばなりません。
其處で私は、自分の考を鳩山に能く話しまして、「私は、子供を自分の言ふ通りに爲
せたいから、私に何んな行き届かない過失があつても、陰で叱つて下さい。陰ならば何の
やうにお叱りになつても關ひませんが、子供の居る前で叱つて下さると、子供が私を馬鹿
にして、遂には私の言ふ事を聞かない様になりますから、若し私の爲る事に誤つてをる
事があつたら、子供の居らない處で言つて下さい」と頼みました。夫れに、鳩山も長い間
西洋に居つて、彼地の事情を能く心得てをりますから、總て私を侮蔑するやうな事は、嘗
て言つた事がございせんでした。夫れ計りでなく、鳩山は、「何事でも、お母さんの詞に
従はねばいけない」と、消極的に私に威嚴を持たせるやうに仕向けて呉れましたので、私
も育児上に非常な便利を得ました。

日本の母親は叱り過ぎる

一體私は、自分でも子供氣遣であると思ふ位ですから、自分の一切の幸福を犠牲にして
唯々子供を大きな立派な人間にしたいと、夫れ計り念じて居りました。總じて日本の母親
は何事でも子供の爲る事に干渉して、彼も不可ない、此も不可ないと、些々たる事に叱り
飛ばし、餘りに世話を焼き過ぎます。これでは子供が段々臆病になつて、萎縮けた小さい人
間になるばかりでなく、遊戯の範圍を限られますから、知識の範圍も隨つて狭くなつて來
ます。

西洋人の母親は子供を容易に叱りません。私も成るべく然う致したいと思ひましたか
ら、例令、子供が悪い弄戯をして居りましても、之を叱り飛ばして止めさせるやうな事は

しませんでした。それに子供と云ふものは誠に無邪氣なもので、此方の仕向け次第では、直に如何でも氣の紛れるものですから、叱らないで、もつとより善き遊戯に氣を轉じさせて、その惡戯を止めさせるやうに致しました。

殊に子供の時代は、何時までも同一の遊戯を爲せて置きますと、頭腦がくさくさして來るものですから、遊戯は時々氣を付けて、取り換へて遣る方が宜しいと云います。併し、世間の子守女の中には、子供などは其方除けにして、自分の遊戯に計り氣を取られてるものも可なり多いやうでありますから、子守女に一任して置く家庭では、私の育兒法はとも行はれません。

二 子供の工夫心を養ふ法

轉べば自分で起きる

子供の心を十分に發達させますには、何事に限らず自分で考へるやうに、此方から仕向けて遣らなければなりません。そして母親は常に傍に監視して居つて、成るべく子供の爲たいやうに爲して遊ばせ、若し悪い弄戯になりかゝつたら、出來るだけ夫れを叱つたり止めたりしないで、他のより多く興味を引く材料を與へて、夫れに氣を轉じさせるやうに致します。例へば春の川に材木を流す役師が、激流の巖に衝突し懸つた時、一寸水馴棹で巖を突いて、筏を側へ反すやうなもので、止めたりなどするのは却つて害を及ぼします。

西洋では、此等の點に就いては極めて注意して、日常の舉止動作から遊戯に至るまで、

二二三
出来るだけ子供に考へさせ、工夫させるやうに努めてをります。例へば子供が轉んでも、親達は夫れを容易に起して遣りません。これは自分で轉んだのですから、成るべく自分で工夫して自分の力で起きるやうにさせる爲です。又これは一方に於ては、獨立の氣象を養ふ手段ともなります。この事に就いて一つの逸話があります。それは日本の某氏が獨逸へ留學しました時に、一日公園を散歩してゐますと、可愛らしい一人の小兒が、駈け廻りながら喜んで遊んでゐましたが、不圖石に躓いて轉んで、悲鳴を擧げて泣き出しました。某氏はこれを見てやれ可愛想にと思つて、駈け寄つて抱き起して遣りますと、後から「何故その兒を起しますか」と、女の喜ばざる聲がしました。某氏は驚いて振り返つて見ますと、その小兒の母親らしい人が駈けて来て、呆氣に取られて見て居ました某氏に禮も言はず、其の儘小兒を連れて立ち去つたさうでございます。某氏は餘りの事に、「失敬な舉動だ」と

腹も立つし、或は自分が獨逸語を聞き損つたのかと、半ば不思議にも思ひながら、歸宅して其の宿の獨逸人に聞きますと、初めて其の不機嫌の理由が解つて、奇異な感に打たれたと云ふ事でございます。

處が我が日本の子供は、何時でも直に親が起して遣るものですから、一寸轉んだ丈で痛くなくとも、又自分で直ぐ起きられても、誰か来て起して呉れる迄は、悲鳴を擧げておいおいと泣いてゐます。其の癖何時まで泣いて居つても、運悪く傍に人が居なくて、起して遣らないと四邊を見廻して、愈々起し人が無いと見るや、はたと泣き止んで、何かぶつぷつと不平を言ひながら起き上つて、すた／＼家へ歸ります。そして門口から突然大きな聲を擧げて泣きながら、家人の同情と憐愍とを求めます。此の如きは、獨立の氣象の缺けて居るところでなく、依頼心の甚だしく増長してをる例でございます。

然るに西洋では、少しでも子供の手足が利くやうになりますと、靴の紐でも、洋服の釦でも總て自ら考へ、自ら工夫して之を結び之を嵌めるやうに此方から仕向けて遣ります。

死んだ學問と活きた學問

一體西洋では、起居進退遊戯ばかりでなく、學問の仕方までが成るべく自ら考へ、自ら工夫するやうに出来てをります。

元來日本の學問の仕方は、總じて注入主義が多いやうでございます。無闇に詰め込んだ處が、夫れを活して應用することが出来なかつたら、其の學問は死んだ學問でございます。然るに西洋では地理なり、歴史なり、文法なり、數學なり、或は生理なり、博物なりを習ふには、その豫習に多くの時間をかけて之を十分に置き、その上で先生から縦横無盡

に質問を受けます。必竟日本の學問の仕方は、教へられる時間が多くて、豫習の時間は僅少で形式的にして止めて了ひます。そして試験前になると徹夜騒ぎをして、所謂一夜勉強で済して了ひますから、假令其の時は覚えても、試験が済めば直に忘れて了ひます。然るに西洋では教へられる時間よりも、平常から自ら思考し、自ら研究する豫習の時間が多くなつてをりますから、骨が折れて苦しい代りには、試験が來ても別に騒ぐ事もなければ、又自分の知識として、永く之を保存する事が出来ます。その上日頃から先生に縦横に質問を受けてをりますから、地理は常に地理として止らず、歴史は常に歴史として覚えてをる計りでなく、總ての方面に之を利用し活用する事の出来る、所謂活きた學問をする事が出来るやうになつてをります。

研究は偉大なる人物を生む

總て世の中の事は何事に限らず、人に教へられて爲るやうでは不可ません。人間には神の與へられた工夫心と云ふものがあるものですから、假令教へられなくとも、倦まず撻まず種々に考へて爲てゐるうちには、必ず漸次巧者になつて來て、遂には一人で立派に出来るやうになるものでございます。

夫れですから私も、往年文部省直轄の一ツ橋高等女學校に教へた傍、隣りにある私どもの建てました共立女子職業學校で英語を教授してをりました時、同處に於て或る時間裁縫を稽古しまして、一時鳩山の衣服は、一切人手にかけず、皆私の手で縫ひました。斯うして、自分で手を下して爲てをりますと、漸次工夫心が發達して來て、物事は豫想外に

好結果を得るやうに巧者になつて來るものでございます。

何事でも唯先生に教へられた通りに爲るだけでは、高々進歩して、先生と同じ水平線になるだけで、到底先生以上の人物になる事は出来ません。ですから教へられた以外に、常に怠らず工夫し研究して先生より大きな人間、父よりも立派な人物になるやうに心懸けねばなりません。倦まず怠らざる研究は、前人未知の事實を發見し、前人以上の人物を生むもので、ソクラテスやニュートン又はフランクリンやワシントンなどの偉大なる人物も、皆此の研究工夫から生れたのでございます。夫れには幼さい時から物事を工夫し研究する事又は思想を鍛鍊する事に興味を有たすやうに努めなければなりません。

天然の開發を計れ

二一八
子供の遊戯は素より、そのする事爲す事に範圍を付けるのは宜しくありません。既に範圍を定め、制限を加へると云ふことは、子供をしてその一部の知識を缺いた人物を作ると云ふことで、言ひ換へれば或る方面の事に關しては、全く無知識、無融通の人間を作り上げることになるのです。例へば、法律家なれば法律にさへ明かであれば、其の他の動物學とか化學とかは知らなくとも可い、又醫者は醫學に通じてさへをれば、他の普通學の知識は何うでも可いやうに思はれますし、事實又然う思つて居る人もあります。けれども是れは非常な誤解で、現に相當の法律家が、醫術に關した裁判に預つた處が、醫學は全く無知識であつたが爲に、頗る困却したと云ふ實例もありますし、又醫者が實際の社會習慣に通じてゐなかつた爲に、その患者の病源を察し得なかつたと云ふやうな實例も耳にしてをります。兎も角も中學時代に於ては諸科目の知識を得る事が、人生に最も必要なる常識を

發達して適當の判斷力を養成する基礎になる次第であります。

此の如く社會百般の學問知識と云ふものは、決して個々獨立に存在してをるものではありません。互に相關聯して、相扶け相補つてをるものでありますから、例へば遊戯にしても、成るべく廣い範圍を與へて、成るべく廣い趣味を有たせるやうにしなければ可けません。そして外へ出ても、何にでも氣を付けさせて、實際に之を見させる方が宜しうございます。

子供の時は知識の範圍の狭いものですから、見るもの聞くもの、誠に珍しく不思議なものが多いので、解せなければ子供の癖として直に質問を發して、根問ひ葉問ひして、理解するまでは聞きます。聞けば覺えて、夫れだけ知識の範圍が廣くなる譯でございます。そして又、是れは斯う爲よと云はないで子供自ら聞くやうに、又は子供自ら爲出すやうに、

此方から材料を與へて、導いて遣るやうにします。即ち庭園へ出れば、共に築山を散歩して、實際の草木に當つて之を見聞させ、又花壇に到れば、手傳つて自ら種子を蒔かせて、植物の成長の有様、種々なる花瓣の状態などを實見させて、所謂天然の開發をはかるやうに努めて遣らなければなりません。

所謂眼の學問をさせよ

「百聞は一見に如かず」と云ひ、「可愛い子には旅をさせよ」と云ふは、皆此の眼の學問の如何に尊く、如何に必要なかを説いた俚諺でございます。夫れにも拘らず、東洋の習慣として、所謂箱入り子息や、深窓の裡に生育つたお嬢様、換言すれば、世間見ず世間識らずを以て誇とする弊風があります。これも亦頗る誤解で、前にも述べたやうに、天地間

の自然に觸れしめて、天然の開發をはかれと云ふ事は、一面から見れば、眼の學問をさせよと云ふ事も含まれてゐます。ですから、子供に玩具を與へるにしても、お手玉やガラガラばかりでは可けません。繪本や樂器や積木、折紙の如き成るべく知識の開發に役立つ種類の物を買つて與へます。

近頃でもよく私は孫に花吹簫、桃太郎、猿蟹合戦、電車遊や、其の他動物等の様々な繪本を買つて來て與へます。殊にその繪本は花、鳥、魚等より、これは象、これは飛行機などと種々問答が出来ると同時に、その物を見せて、所謂眼の學問が出来ますから、最も結果が宜しうございます。子供の時代は、物を見れば必ず聞き、聞けば覺えると云ふ風です。ですから、廣く物事を見聞させると云ふ事は、是れ又觀察力の養成になります。

近時歐米では、此の眼の學問に非常に重きを置いて、幼稚園などでも、大に研究の歩を

進めてをります。例へば教室や廊下の如きでも、日本のやうに冷い殺風景なものではなく、教室の壁から廊下の隅に至るまで、悉く種々様々な繪畫や肖像などを以て飾られて、如何にも温かく出来てをります。そしてその繪畫の如きも、單に繪畫としてでなく、春の花野を描いても、前方には春の野に於ける葎、蒲公英、蓮華草などの草花を、植物の標本的に描いて、漸次後方に至るに従つて、遠景の花野になるやうに描き分けてありますから、管に繪畫として計りでなく、之を見れば自然に植物的知識の得られるやうになつてをります。或は肖像にしても、無意味なものはいつてもありません。皆英雄豪傑學者などの像を安置して置いて、此等大人物の英姿を自然に腦裡に泌み込ませるやうにしてあります。その他動物の標本の如きも、在來の日本の標本は、學校のは素より博物館あたりのも蛇は蛇、鹿は鹿と單に其の物ばかりを臺に付けて標本としてありますが、米國あたりでは蛇なら蛇の

棲むべき周囲の天地を、蠟細工や造花などで拵へて、其處に蛇の標本が、如何にも自然の野にをるが如くに据へてあります。ですから之を見れば、教へられなくとも、直に蛇その物を知るばかりでなく、相關聯してその棲むべき場所、その生活状態などを知ることが出来ます。此の印象が腦裡に残つてをりますと、山野に出懸けた時も、斯う云ふ處に蛇は棲んでをるものであるから、迂濶に踏み込んでならぬと、前に見た標本を聯想して直に注意するやうになります。斯うなつてこそ、始めて學問が生きて來るのでございます。此等の例から考へても、歐米では如何に眼の學問に重きを置いてをるか云ふ事が明瞭でございませう。たゞ此等に關する知識を開發する際に餘り多くに就て一時に答を與へずに、成るべく少しづつ此方より問を發する方が宜しい。それは一時に澤山の事を教へると子供の頭腦を散漫させ、何事も充分に印象を與へず、遂に明晰を缺く恐れがあるからであります。

三 子供の躰け方

昔と今と育児教育法の差異

星移れば品改まるが如く、時代の推移と共に總ての事物の變化して行く事は、歴史に徴して明かでございます。即ち今年は認められた學説も、明年は否定せられ、今日眞理と信ぜられ、最良の方法と認められてゐるものも、明日は誤謬として排斥せられ、或は猶より善き方法の發見せられて行く事は、私共の日々見聞し、經驗する處でございます。育児教育法も、矢張り此の徑路を辿つて、今と昔とでは大に其の趣を異にしてをります。例へば昔は行儀を仕付けること云ふので、幼い時から跪坐つて坐らしたものでございますが、これは非常に身體の發達を害しますので、私は勉強させるにも、小さな椅子を拵へ

て、夫れに腰を掛けさせて、長く坐らせる事は決してしませんでした。又昔は光の強い燈下で勉強すると眼を害すると云つて、行燈の灯で勉強したものでございますが、今日では弱い光は却つて眼を害するものとせられてをります。

其の他醫術の如きものでも、随分變化して來てをります。例へば彼の有名な小兒科醫原桂仙さんの時代には、母乳よりも牛乳の方が良いと云ふので、牛乳三分の一と、湯三分の二とを混和して、生後直に與へて、漸次水分を減じて行つたものでございますが、今日では母乳の方が良いとせられてをります。

此の如く總ての事が年と共に改善せられ、變化して行きますが、此等は皆僥ます怠らざる研究の賜物でございます。

*

*

*

*

*

食事の仕方

二二六

私の實行しました育児法は、金錢も要りませんし、常に傍に付いてをりますので、金錢と時間の餘裕のない人には、完全には出来兼ねます。

私は、前項にも申しましたやうに、小さい中段のある椅子を拵へまして、是に腰を掛けさせ、子供が箸を持つ頃から一緒に御飯を食べて、身體の姿勢を矯したり、ナイフ、フォークの持ち方から御飯の食べ方、或は噛みながら物を言つてはならぬと云ふやうな事まで、總て實地に就いて教へました。夫れですから長男は左利であるにも拘らず、右の手を用ひて若い者には似合はぬ程、行儀よく器用に食事を致します。(食卓の禮法等は詳細に拙著「婦世間」には、男の子は食事などは何うでも可いやうに思つて居られる方もあるやうです)

れど、それは誤りで、食事は心身兩者の發達に大關係を有つてをるばかりでなく、他日成長して交際社會に出るやうになつた時、家庭の善悪は其の食事の仕方で判ると申される位ですから、これに就ての禮儀を子供の時から正しく教へ込むやうにしなければなりません。

勉強の仕方

後にも申しますが、一日のうちで勉強させる時刻は、その子供の性質にも依りますが、一郎の如き特別に活潑なるものには、周圍に誘惑のない、そして又尊敬する父君が家の中に居らるゝ拂曉が、頭腦も休息して明晰になつてゐて、殊に適當でありますから、毎日三時半から起して、二時間位勉強させました。勿論この時刻は、未だ暗うございますから、燈火が必要ですが、其の頃はまだ瓦斯や電燈は用ひませんでしたから、空氣洋燈を用ひま

二二七

した。そして、その光線の取り具合は、各自に向つて左から取りました。右側に洋燈を置くのは宜しくありません。又背後も陰になることがあります。左側よりするのが一番宜しいやうでございます。

私は燈光の具合が眼に及ぼす利害に就いて、綿密に醫者にも質問し、又自分で経験し研究しました後子供にさせました。私の學生時代には、醫術も教育法も、今日の如く研究が進んでおませんでしたから、私は夫れが爲に視力を弱めました。要するに、世の中の總ての事は、それが最も適當であるか又は不適當であるかの二つの中の何れかでありまして、適當な方法であれば其のものゝ發達を助け、不適當なものであれば其の發達を妨げること定まつて居ります。それ故私は、事々物々、事に當る毎に、一々その道の専門家に質問して、更に自分で工夫し研究して、その最も適當と認められた手段方

法を取ることに致しました。

屏風に教訓を認めて

- 一、終始不變 父母之愛
 - 一、一夫一婦齊家之要素
 - 一、養徳性在家庭
 - 一、忍耐 成功之母
 - 一、俯仰不恥天地
 - 一、己所不欲 勿施人
- と云ふ格言と、

一、人の一生は重荷を負ひて遠き路をゆくが如し。急ぐ可らず。不自由を常と思はば不足なし。心に望起らば、困窮したる時を思ひ起すべし。堪忍は無事長久のもとゐ、怒は敵と思へ。勝つことばかり知りて、負くることを知らざれば、害其の身に至る。己を

責めて他を責むるな。及ばざるは過ぎたるよりまされり。

と云ふ家康の遺訓とを、鳩山に二枚の屏風に認めて貰ひまして、これを二人の子供の居間に使用いたしましたして、絶えずこれに親炙せしめ、以て深くこれを頭腦に印象せしめることに努めました。

三二

雑沓中へ連れ行く書

私は、芝居へは決して子供を連れて行きませんでした。尤も私自身も、殆ど芝居へは行きませんでしたけれど、總じて子供は、何事でも直に飽きるものですから、屹度ぐずぐず言ひ出したり、又は泣き出したりします。然うすると、側の観客に迷惑にもなりますし、第一空気が非常に悪うございますから、健康に害があるばかりでなく、頭腦の未だ確固ら

ない中ですから、子供を馬鹿にして仕舞ひます。能く世間には、自分が面白ければ、子供にも面白いだらうなどと思つて、泣くのも聞はず、賑しく見たり聞いたりしてをる親がおりますけれど、此等は子供の心親知らずで、子供にとつては、誠に有難迷惑な話であるばかりでなく、必ず腦を傷けます上に、他の看客に迷惑をかけますので、公德と云ふ點から申しても非常に害があります。それ故敢て劇場ばかりでなく、總て他人の雑沓してをる中へは、決して子供を連れて参りませんでした。

來客と子供

又來客の席へも、子供は成るべく出さない方が宜しうございます。能く人に依りますと、お愛想の積りで、來客の席へ子供を出しては、種々の難をさしたりする方もありますが、

三三

これはお客にとつては甚だ迷惑なことですし、子供も亦大人の話は分りませんから、「お話
は厭や〜」と言つて、嫌ふものでございまして、子供の爲にもなりません。ですから私
は、來客の席へは成るべく出さない習慣にして参りました。

西洋でも、子供は來客の席へは出さずとしてあります。夫れですから彼地では男女とも
子供は學校一週りを終つて、一人前にならなければ、決して人中へは出しません。その代
り彼地では、子供だけをお客として、母親が時々招待し合ふことになつてをります。これ
は誠に善い習慣だと思ひます。

大人は大人、子供は子供で、各々その考も、趣味も違つてをるのでございますから、
之を一緒にすると云ふことは雙方の爲に愉快ではありません。但し、子供は働くことが好き
ですから、少し成長したならば、お茶の會等にはお菓子を運ばせたり、茶を持つて來さし

りして、接待に使ふのは差支はありません。

お客にとつても、其處の奥様に爲れるよりは、子供の方が氣の毒でもありませんから、
結局子供に働かせる方が宜しうございます。殊に男の子供などは、客の前では不作法も出
來ませんから、行儀の稽古にもなつて却つて宜しうございます。私共でも子息等の中學時
代には、能く西洋人を招く時などに出して手傳はしました。

子供の讀物とお伽噺

前項にお伽話や繪草紙のことを一寸申しましたが、一體私は、日本在來の『かち〜山』
や『猿蟹合戦』などのお伽話を子供に讀ますことは、餘り感心しないと思ひます。それに未
だ幼少のうちには夫れを面白がつて讀んでをりますけれど、少し大きくなりますと、何う

して白が動き出して物を言ふのであるか、又何うして人間が猿や雉子と言葉を通すのであるかと云ふやうな疑問を必ず發します。殊に人間が自由自在に空を翹けたり、卵が火鉢の中に隠れてゐて破裂したりするやうな、架空的なお伽話は子供をして徒に空想に走らすばかりで、後來何の利益にもなりません。のみならず時に非常な害を及ぼすことがないとも限りません。外國にもこの種のお伽話は頗る澤山ありますけれども、少くとも慙う云ふ時代は既う過ぎてをると思ひます。

ですから私は歴史物語とか、英雄談とか、或は植物の話とか、動物の話とか、又は名高き山川、或は又種々の物品、諸國の産物の繪等の様な本を選択して買つて與へました。が、どうも種類が少く適當のものが見當らないのに困りましたが、斯く努むれば假令歴史や傳記や、又は動植物の性質状態までは覺えないまでも、單に秀吉とか家康とか、僧はビスマ

ルクとかワシントンとか、或は象とか狐とか、薔薇とか桃とか、又は富士山とかヒマラヤ山とか、隅田川とかミシシッピー河とか云ふ名前を覺えてゐる丈でも、將來、此等の事物に就て本で讀んだり、若くは此等の動植物を實際に見た時に、「はゝア是が彼れであつたか」と、茲に一段の興味も湧いて、非常に知識發達の補ひとなるものでございます。

些細な事にも注意せよ

子供と云ふものは能く異様な眞似をしたり、或は馬鹿らしい事や出過ぎた事を、言つたり行つたりするものでございますが、假令其の事が無邪氣くても、可笑しくても、夫れを笑つたりなどするのは宜しくありません。斯う云ふ時に笑ひますと、子供は之を以て人を喜ばしたと思つて、屢々之を繰り返すやうになるものでありますから、努めて笑はないや

うに致します。可笑しくとも笑ひを殺して、寧ろ苦い顔をして、沈黙つて涙と視てをりま
すか、又はつまらぬ事で、一瞥の價がないと申す振りをするも宜しいし、又故意に叱らず
して、不賛成の意を表せば、頓て子供は止めて了ふもので、此の事は西洋の禮儀の本にも
書いてあります。

子供と云ふものは、時に調子に乗りまして、些細な話を如何にも大袈裟に話したり、又
は極く詰らない話を如何にも面白さうに、言葉を飾つて誇大にして話したりすることが、
あるものでございますが、その時母親はこれに賛して、決して興味を持つやうなことがあ
つてはなりません。若し憊ういふ場合に、面白いとか、愉快だとか言つて笑ひ興じたり致
しますと、子供心にも、人を喜ばせたさに、又自分が手柄がしたさに、言葉を飾り、話を
作へて、遂には好んで虚言を言ふやうになるものでございます。

名譽心は獎勵するに及ばず

世に名譽心のない者は、殆ど一人としてありませんから、名譽心を獎勵する必要は決し
てありません。例へば、學校の成績などの如きものでも、餘り之を獎勵しますと、得て虚
榮心に走り易いものでございます。そして若し其の成績が悪い場合があると、遂には
自暴自棄に陥る様な弊害が起ることがあります。如何なる人にも、名譽心と云ふものは、
多少に限らず天然自然にあるものですから、無闇に之を獎勵しなくとも、毎日自分の義務
さへ怠らず勵んでをれば、夫で宜しうございます。

四 先づ賢母たるの要

一人でも善良の子供を

子供を生めば人口が増加するので、國家に對して忠であるといふ人もあります。尤も絶えず外國と戦争でもして居るならば、人口の増加といふことも必要でありませうけれども、然うでない限りは、徒に人口ばかりが増加するといふことは、決して賀すべきことではありません。殊にこれからの、優勝劣敗の世の中では、假令数は少くとも、善良なる者の現はれることを希望します。

能く世間には、子供一人を育てるには、なか／＼骨の折れることであるから、満足に手足が動くやうになれば、夫れで十分であると申す人もありますが、併し子供を生む以上は、

その子供をして、立派な人物に育てなければ、親たるの甲斐がありません。

總じて何事に限らず、夫れが適當なるものでなければ、不適當なものであるし、又善良なるものでなければ、劣等なものであります。ですから若しその子供が善良なるものでしたら、社會を徳化しますから、國家にとつても忠となりますけれども、一朝その子が、不幸にして善良ならざるもの、即ち劣等なるものでしたら、却々忠どころでなく、社會に害毒を流し、國家にとつても、大不忠でございます。善には化し難く、悪には染み易い俚諺の通り、悪人の悪化は、善人の善化よりも、更に一層激しいものですから、生中の者は、出さないより害があります。然う云ふ譯ですから、世の多くの父母たるものは、數人の凡人を生むよりは、一人の善良なるものを生むやうに、心掛けることが必要であらうと思ひます。

よく妻を選択せよ

若い者は妻帯する際に、兎角美人を希望して容貌ばかりに眼を付けて結婚しますから、妻となる者も、化粧ばかりに憂身を費し之にのみ全力を注ぐやうになります。立派な善良なる後継者を置くと云ふことは、誠に大切なことでございますから、妻帯する際には、財産や容貌にのみ心を傾けず、この婦人は、果して自分の子供を立派に教育し、善良なる後継者を置き得る婦人であるか否かと云ふことを能く考へ、然る後結婚せらるゝやうに、これは特に、今の若き男子の方に、お願いいたして置きます。

私も最初、竹橋の女学校で外國教師より英語を教へて貰ひ、後、お茶の水女子師範学校で高等の普通學を修めました。元來私は學問は洵に面白いものであると、非常な趣味を

有つてをりましたから、今日の時代でしたら、或は私は人の母とならなかつたかも知れませんが、鳩山が教育ある者を希望しました其のお蔭で、其の後私の英語の力もつき、第一に、二人の子供の母となり得ましたことを、深く感謝してをります。此の二ツの事は三十年來私が鳩山に感謝し、鳩山のために全身を犠牲にした次第であります。

母となりて後に人、育兒法を聞く

娘時代に餘り教育に重きを置かなかつた人が、人の母となつたので俄に子供の教育に心を配し出し、私の所へ來て育兒法のことなど聞いた人々もありましたが、育兒法は一朝一夕に得心出来るものではありません。學問をして常識を養ひ自ら工夫をしないと、唯受賣で

は十分の事は出来ません。夫れですから、斯う云ふことの無いやうに、男子の方が最初結婚される時、その婦人の教育程度に就いて、能く考へて置かねばなりません。

今、東洋で進歩した國は我が日本ばかりで、支那も印度も彼あ云ふ有様ですから、世界の人々は此の東洋では我が日本ばかりに注目して、その將來に就いて種々の想像をしてをります。夫れにも拘らず、日本人の通弊として、唯目前の利慾にのみ迷つて、自分さへ良ければ人は如何でも可いと云ふ風ですから、信用は漸次薄くなつて來ますし、生存競争は愈々激しくなつて行く状態ですから、今少し、信用を重んじ、將來の事も考へて、各個人の妻たる者は、故障なくすらく、發達するやうな立派な善良な子供を生んで、將來國家に對して、重要な人物を養成するやうに心懸けねばなりません。

* * *

子息に働いて貰ひたい

私は女の事でありませから、子息に働いて貰ひたいと云ふのが、私の目的でございます。夫れには所謂小才子とならないやうに、心身が適當に發達して、大きな人間になるやうに育てなければなりません。一體この東洋人は、兎角人前を小器用に飾つて誤魔化す癖があります。私は小才子が一番厭ひでございます。

男子が自分の子供を、自分より勝れた立派な人間にしたいと思ひますならば、第一に我が子を十分に教育することが出来、家政も能く治め得て、後顧の憂のないやうな、妻を得なければなりません。そして又妻たるものは、夫と子息に、社會に立つて十分に働いて貰はねばなりません。

これが私の理想でございます。

弱點に理窟を付ける癖

現今も過度時代ですけれど、私の時代も幕末から御維新の過度時代で、その頃の英雄豪傑と云はれた人は、或は妾を蓄へ、或は酒樓に上つて盛に鯨飲馬食したものでございます。西洋では一夫一婦ですけれど、東洋では蓄妾することを、何とも思はない悪い習慣が有りました。袁世凱の如きは、二十五人も妾があつたと云ふことでございます。

一體人間は、兎角自分の弱點に理窟を付けたがる悪い癖があります。トルストイも、「醜業婦は醜業婦で、人をだます程勝れた事はないと思ひ、又探偵は探偵で、人の秘密を發くを以て名譽とし、盜賊は物を餘計に盜むことを以て功名としてゐる」と言ひました。尤も

自分の爲てをる事を悪いと思つた日には、良心の叱責に苦み一日も安穩に暮せるものではないありませんから、斯様に良心を鈍らして、自分の弱點に理窟を付けるのでございますが、男子が妾を蓄へたり、酒食に耽つたりいたしますのは、その子供にとつても、非常に悪い感化を及ぼすものですから、どうか、十日の見る處、十指の指す處を公平に判斷してもらひたく、即ち善き後繼者を作り、以て將來の國民の安寧幸福を増進するといふ事を基礎として判斷して頂きたいものでございます。

男は法律を、女は道徳を作る

現今、人の父となつてをる人達の若かつた時代と、現今の若い人とを比較して見ますと、今の若い者の方が品行が良いと、多くの人が言ひます。實際子息に嫁を貰ひましても、誠

に圓滿に治つて行きます。これは時代の然らしむる所であると言ふ人もありますが、昔の若い人に比べますと、近頃の若い人は、確に品行が進んで居りますので、これは誠に喜ばしい事でございます。

諺に、「男は法律を作り、女は道徳を作る」と申します通り、その子の道徳如何は、全く母親一つにあることですから、世の多くの母親たるものが、悉く心を合せて、自分の子供を品行の方正な、理想的の大人物に育てたいと思ひましたならば、茲百年を出でずして、日本は全く一變するでございます。

子供に對する信

私は、私の子の品行に就いては、飽くまで信用してをります。假令、今百人の藝者

の中へ、唯一人投げ出して置きましたも、これだけは私は安心して居られます。又茲に千人の人が、私の子の品行に就いて、私に告口を致しましたも、私は決して之を信じませぬ。私は、私の子の品行に就いては、幼少い時から能く知つてをります。私は、夫れほど自分の子を深く信じてをります。

世の總ての母親が私が私の子を信じますやうに、自分の子を信ずることが出来ましたならば、世の中に、醜業婦と云ふものは無くなります。従つて、今日八釜しい問題となつてをります廢娼問題なども、必要がなくなつて來ます。従來醜業婦問題とか、廢娼問題とか、種々この種の問題に就いて騒いでをられますが、夫れよりも先づ第一に、各自自分の子供が此等の者に、關係をつけないやうに教育することが必要だらうと思ひます。そして愈々總ての人が、關係をつけないやうになれば、彼等は捨て置いても、自然に品行

方正になります。私は世間の人々が、先づ此の點に就いて注意せられたら好からうと思ひます。

小才子と緻密家とは違ふ

虚言を吐いて人を瞞著したり、車掌の眼を眩して、電車の只乗をしたりする悪性の小才子は、私は大嫌でございませけれど、併し微細い處に氣の付くのは、決して悪いことではありません。殊に數學のやうな理窟は、一厘一毛たりとも違つてはなりません。又文章などの係り結びを誤つたりするのも不可ません。その他、何の花は瓣が幾つあり、雌藥が何本で、雄藥が何本あるのであるかと云ふやうな事なども調べて、十分觀察力を養つて置くのが宜しうございます。

一體、昔の學者は、馬鹿のやうな人間が善いと言ひましたけれども、これは何も實際馬鹿なやうなのが善いのではなく、こせくした、小才子風の者が不可ないと云つたのでございませう。

斯様に、小才子と緻密家とは全然違ふのでございますから、此の點に能く留意して、緻密な頭腦を養ふと共に、小才子とならぬやうに、養育しなければなりません。

先づ母たるもの、資格を

品行の正しい、善良な人間を作るには、子供のうちから其の覺悟で養成して行かねばなりません。子供のうちならば、如何様にも母親の自由になるものですから、如何に養育したならば善いかと云ふ、適當な方法を發見することが必要でございませう。

夫れには、先づ子供を立派な人間に養成し得るだけの、母たる者の資格を作らなければなりません。その手段としては、種々の歴史を読むのも宜しうございますし、又現在の各方面に於ける生きた實際を見ることも必要でございます。尙又、心理學教育學などの知識を修得するのも緊要でございます。

要するに、多くの本を読み、多くの事を聞き、広く世間を見て、種々な事を知り、常識を養ふことが肝心でございます。西洋人の育児法なども、私には非常に参考となりました。

五、兄と弟

兄弟友愛なきは一家滅亡の基

毛利元就は、臨終の床に兄弟の愛子呼び、一束の矢を出して、「汝等、この矢を折つて見よ」と言ひました處が、何分にも澤山の矢が束ねてあるのでございますから、なか／＼折れませんでした。父は更に詞を重ねて、「然らば一本づゝ折つて見よ」と言ひました處が、今度は見事に折れました。其處で元就は、兄弟に諭して言ひますには、「汝等兄弟もまづ其の通り、兄弟仲よく力を協せて、相扶け合つてをりさへすれば、假令我れ亡き後とても、決して敵の爲に破らるゝ如き事はなければども、若し兄弟反目して、はなれ／＼になる時はこの矢の如く、我が家は忽ちに滅亡せん」と、兄弟の友愛を教へたと申しますが、實際こ

二五二
の兄弟の友愛ほど大切なものはありません。昔の歴史にも、かう云ふ例は澤山あります。彼の義朝一家は、親子兄弟敵味方となつて、悲惨な末路を遂げ、又頼朝は、彼れ程の豪い入でしたけれども、弟義経を容れることが出来なくて、之を退けた爲に、遂には一家も永續することが出来ませんでした。又家康は、信長其の他の關係から己むを得なかつたにも依りませうが、自分の妻を殺し、長男三郎を殺し、秀康をも殆ど殺したも同然なやうな事をして、親族を容れることが出来ませんでしたから、假令徳川の流は十五代に續いても、決して幸福な人ではありませんでした。後秀忠が竹千代國千代に就いて、儲貳を變へんとするのを聞きまして、家康が「我れ三郎に於いて終身の怨みあり」と言はれましたのを見ましても、如何に家康が後悔したかと云ふことを知ることが出来ます。又三代將軍家光は、明君でしたけれども、遂に春日の局の詞を用ひて、弟に自殺させました。これは亡

き兩親に對し、衷心耻づる心が必ず家光の幸福を減じた事であらうと考へられます。斯う云ふ兄弟の争鬭は、敢て往昔ばかりではありません。今日でも能く遺産分配などの爲に、兄弟互に相反目してをると云ふやうな例は、随分澤山見聞してをります。此等は、全く家族制度から起る弊害でございます。ですから我が日本のやうに、家族制度の國に於きましては、母親たるものが育兒の際、更に一層この友愛と云ふことを獎勵しなければなりません。

外國と戦争するよりも、内亂の方が遙に恐ろしいものであるやうに、家庭の不和は、直接一家の盛衰に影響を及ぼすものでございますから、友愛は、寧ろ孝行よりも大切なもので、兄弟姉妹は父母と異なつて、永く此の世に生を共にするものであります故、父母なき後は尙更相助くる必要があります。實に終生互に力となり得る筈のものでございます。

我子に豪くなれと言ふは間違ひ

毛利元就は、嘗て嚴島に詣でた時、自ら天下を掌握する事を祈願しました。曰く、一郡を得るには一國を得んと志し、一國を得るには天下を得んと志す如く、志は大なるべしとの事でございます。

尤も此の時代は亂世でありましたけれど、これは文明の今日から観れば、間違つてをることと思ひます。

能く世間には、子供が「やれ私は大臣になる」とか、或は「僕は大将になる」とか言つてをりますと、夫れを喜ぶ親もありますが、總て物には順序といふものがありまして、少しづつ漸を追つて築いて行かねばなりません。即ち幼稚園時代から、小學、中學の時代を

經て、大學に至るまで、次第々に希望も向上して行くもので、最初から一足飛びに天下を取らうなどとすれば、所謂壯士か浪人になつて失敗して了ひます。

又母親が教育に腐心して、子供の人格發展に努めますのは、子に對する母親の義務を果しますので、その子が世人を悪感化せぬやうに、誰れが眞似をしても差支のない、所謂模範的の人間になるやうにと努むるのでございます。總じて女でも、男でも模範的と申すことは大切でございます。即ち女學生は女學生、女中は女中、細君は細君として、各々の階級に於ける模範的の人間となることは、寔に國家の爲でございますけれど、無闇に、豪くなれ、英雄になれ、豪傑になれ、大學者になれと云ふだけで、其の方法を授けないのでは、無理を子供に強ふると云ふもので、私は間違つてをると思ひます。

* * * * *

父母亡き後の訓戒

兄弟が餘り年齢が懸隔れてをりますと、兎角相談相手になり難いものでございますけれども、私どもの兄弟は、年子でございましたから、何事も兄弟力を協せて、お互に相扶け合つて爲よ、一本ならば折れる矢も、二本になれば折れ難く、一匹の蟻では引けない米も、二匹力を協すれば容易く引き得るやうに、世の中に協力合同ほど、心丈夫な大なる力を持つてをるものはない、之に反して孤立ほど心細い寂しいものはない、同じ母の懷中に抱かれて、同じ母の乳を吸ひ、同じ屋根の下に成長したものであるとして見れば、どうか仲よくして、兄弟互に力を協せて相扶け合ふやうにと、心を籠めて養育して参りましたが、お蔭と兩人とも、喧嘩は固より、口論なども一度もしたことはありません。

世間から誤解されし私の夫

鳩山は世間から傲慢で我儘のやうに思はれたかも知れませんが、學校時代には皆さんから姉さんと言はれた位で、極めて温和で同情のある人で、自分を犠牲にして人のため國のために計つた人でございます。たゞ演説の際自分の意見を發表するためには、思ひきつた事を誰憚らず縦横無盡に痛論し、又自己政治上の進退を決する時などは、何人にも毫も相談せず、何人の干渉も許さず、如何に自身に不利な事あるも、更に躊躇せず之を斷行致しました。其の果斷の事は常に知己友人はおろか、傍に居る私迄もの意表に出でました。然し平常は至極温和で、怒を露すなどの事は固より、人と口論したことなども決してありませんでした。それを單に鳩山の演説を聴き、鳩山の政治上の進退激變を見た人々は、動

もすると誤解されたかも知れませんが、鳩山は日常は知己友人等に就て、冷酷なる品評を爲すとか、又は過失を指摘し、皮肉なる言語を吐く事は大の嫌でありました爲、私の子息等も家庭に於て人の悪評を會て耳にした事は御座いません。たゞ私が前に述べました如く、歴史上の人々に就て批評を加へて話をしたのみであります。鳩山は如何なる大事件が突然發生しても、毫も失望又は狼狽しないことは勿論、顔色さへも變へた事はありません。極めて冷靜なる頭腦を以て、明晰なる判断を下しました。これは鳩山が理性に富んで居つた爲と思ひます。然し子供等と遊ぶ時は、子供の心情を酌み取り、自分が子供になつた氣で相手をしてやりました。又子供及び私などに向ひ、鳩山は會て侮辱したやうな言葉を、永い年月の間一回も發した事はありませんでした。此等の事は子供の教育上實に裨益する事が多かつたと考へます。

兄弟を偏愛してはならぬ

能く世間では、兄の方を非常に可愛がつたり、又は末子のみにかつたりする親もありますけれど、これでは互に僻が出て宜しくありません。ですから私共では、兄の方を二度呼べば、弟をも二度呼ぶやうに、その呼ぶ回数までも同じやうに注意して、偏頗のないやうに心懸けました。そして弟をして、兄さんを尊敬するやうにさせました。その代りには、世間では能く弟を居候扱ひに致しますけれど、私共では兄も弟も全く同じ待遇をいたしました。ですから私は、弟に能くこの事を話して聞かせまして「世間では兄弟に懸隔を付けるけれども、私は夫れを爲ない代りには、長幼序ありと云ふも教あるから、兄さんには、どんな無理なことを爲れても、又言はれても、決して之に反抗してはならない」と

申し渡しました。夫れですから私どもでは、兄弟喧嘩は一度もしたことはありません。

二六〇

幸不幸を兄弟共に分つ習慣

言ふまでもないことですけれど、兄弟の何れか目出度い事、喜ばしい事がありました時は、共にその喜びを分つ習慣を養ふことが必要でございます。之と反対に、若し又悲しい事不幸な事がありました時は、兄弟其の悲しみを分つて、慰藉し合ふことが肝要でございます。これは敢て兄弟の間柄に於てばかりではなく、一般の人に對してもこの心懸が肝心でございますが、特に兄弟の間に於ては最も必要でございます。

兄弟會計を共にせしこと

私は兄弟の會計を一緒にさせました。そして兄弟何れか善い事を致しました時は、その褒美として金を與へました。私は斯様にして、幸不幸に限らず、兄弟その利害を共にさせました。子供が善い事をしました時に、その褒美として金を與へますことは、決して害にはなりません。私は兄弟何れが貰つた金でも、之を一緒にして蓄積させまして、ピアノとか玉突とか、或はオルガンとか云ふ價值あるものを買ひたいと申し出た時は、賛成して半額手傳つて出してやりました。子供の貯蓄した金は有害のことで無ければ、一應私の許を得て費ふことにして置きましたが、私の心から賛成する使ひ方の時は、半額は褒美として私から出金してやりました。金の有り次第に無益ぬ物を度々買ふことは、第一に不經濟でございますけれども、斯うして纏めて置いて、有用な物を買ひますと、物を正しく買ふと云ふ事と、金を生かして費ふと云ふことを學ぶことになりました。

二六一

六人にするまで

兄弟の衣服や寢所を同じうす

能く家に依りますと、總領には美しい善い着物を着せて置きながら、次男には全然違つた粗末な着物を着せたりなどするのを見懸けることがあります。これでは、側の見た眼がよくないばかりでなく、第一當人同士の爲にも善くありません。總じて總領は可愛がられて育てられますから、どうしても愚鈍でございます。そして弟の方は餘り可愛がられないだけに、何事にも敏捷で伶俐でございます。私は世間に能く有り勝ちの總領の甚六に爲たくないと思ひまして、長男の養育には、特に苦心いたしました。又寢所も兄弟共にいたさせました。

弟は絶対に兄に服従

私は弟をして、兄には絶対的に服従するやうに致させました。弟は温順うございませたけれど、兄の方は却々活潑でございましたから、弟を愛しては居りましたけれども、時弟を追懸けたりしたこともありましたが、斯かる時には何時も弟は逃げてをりました。そして時には随分弟に氣の毒と思ふやうなこともありましたが、私は思ひ切つて弟をして、兄に反抗させないやうに、何處までも兄として立て、敬愛するやうにさせました。そのうちに弟が學問が出来るやうになりましたから、兄も弟を尊敬するやうになり、茲に兄弟互に敬愛し合ふやうになりました。

* * * * *

共に外出して観察力の養成

鳩山は、子供の爲には随分盡した人でございまして、日曜日又は大祭日には、必ず本日も不在といふ札を懸けて置きまして、私と共に子供を連れて、動物園や郊外などへ散歩に参りましたものでございます。私も子供が高等學校時代になりまして、丁度慈善芝居の發起人の中に加へられました時、初めて芝居へも参りましたやうな次第で、夫れまでと申すものは、前にも申しました通り、劇場などの雑沓中へ子供を連れて行くことは、子供の爲にも宜しくありません、さうかと申して、家へ残して行くことは、猶更留守が心配でございますから、斯ういふ方面へは全く足を向けませんでした。そしてその閑暇さへあれば、子供を連れて、植物園とか動物園とかへ参りまして、種々なものを實際に就いて見せて、観

察力を養成させました。その際必ず鉛筆と手帳とを持って行つて、夫れに種々な見たものを押へさして置いて、宅へ歸つてから、その日記を作らせました。これは一方には文章の練習にもなります。西洋では、文章は日常の詞の通りですから、その儘書けば宜しいのですけれど、我が日本では、近頃こそ大分言文一致が盛になつては來ましたものゝ、未だ口語と文章語とが一緒にはなつてをりませんから、西洋に比較して、文章を作ることには餘程困難でございます。處が斯うして幼少い時から日記などを書かして、習慣を付けますと、文章を作ることなどは、何でもないやうになります。言ふまでもなく文章はその人の思想を現はす大切なものでございますから、容易に又上手に作るやうに練習させて置く必要がございます。

斯様にいたしまして、日曜大祭日には、必ず家外へ連れ出しまして、日記の材料を與へ、

観察力を養はずやうに努めました。

父君不在中の善事及び過失は

父君の留守中に於ける著しい悪戯や、過失などのありました時は、父君の帰宅後必ず詫を言はせました。その代り又善い行爲のありました時も、必ず之を物語りまして賞めて貰ひました。

孟子は、人の性は善であるから、今茲に幼児があつて、將に井戸に落ちようとするのを見たらば、如何なる悪人でも、必ず飛んで行つて扶けるに違ひないと申しました。さうかと思ひますと、又荀子は、人の性は悪であると申しても居ります。又ラコルデルは、如何なる人でも聖人の素と悪人の素とを備へない人は一人もないと申されましたが、私は

此の後者のラコルデルの言葉が最も能く當つてをると考へます。

小説などには、善人は何處までも善人、悪人は何處までも悪人となつて居りますけれど、併しこれは唯兩者の比較問題で、善の中には必ず悪はあるもので、絶對の善と云ふものは、神より外にはありません。又その代り悪の中にも、必ず多少の善はあるもので、絶對の悪と云ふものはないのでございます。たゞ善人は、善の分量が其の習慣の上に優勢を占め、それが恒在性となり居るものでありますが、又多少の善き性質も、時あつてか現實しない事もあります。例へば彼の石川五右衛門が釜茹になつた時に、追々油の煮え立つに連れて、我が子に苦痛を與へるに忍びないで、高く差し上げたといふ傳説を考へましても、悪の中にも必ず善はあるものであると云ふことが解ります。

一體子供の性質は、活潑な子供ほどラコルデルの詞の通りに、善惡兩方面の性質を著

しく備へてをるものでございます。即ち活潑な子供は、一方に義侠心に富んで居る代りに又悪戯を餘計いたします。従つて斯う云ふ子供の教育は、頗る骨の折れるものでございませぬから、その母親なるものは、特に注意と忍耐とを要します。そして其の修養宜しきを得ましたならば、有終の美果は必ず尋常を超越するものでございます。

兄弟二人の性質の特徴

長男の一郎は随分活潑でしたから、従つて其の教育にもなかく骨が折れました。次男は眞の長男のお附合で教育せられたやうなものでございます。

世の中の總ての事は、誠に便利に出来てをるもので、例へば癲癲病院などの狂人でも、一度に亂暴れ出すことは決してないと申しますが、兄弟などでも、一方が活潑ならば、一

方は必ず温順いものでございます。私の處の兄弟も其の通りで、弟の方は全く兄のお相伴で大きくなつたと言つても善い位でございます。私が兄の教育に紛骨して居りますを見て、弟は一度も世話をやかせず、自分から進んで勉強致しました。弟は動もすると勉強を爲過ぎる傾向がありまして、兄に無理に屋外に連れ出され、爲に健康上大に利益を得ました。

鳩山も死にます時に「一郎も事務所の事は十分出来るから、既う決して心配はない。お前も安心するがよい。私も夫れに就いては些し心配はない。心残りはない」と言つて死なれました。

次男は至極温順で、一度も父から世話をやかれたことはありませんでした。また一郎は、情が強過ぎる位で、大變氣が克つてをりましたから、従つて義侠心も強く、英雄肌とも申

しませうか、時々思ひもよらぬ奇抜なことをする事がございます。ですから政治家などには宜しからうと思ひます。例へば或時の如きは、友人が非常に困窮して、高利貸から金を借りんとする際、偶然其の證文を見て大に同情しまして、其の當時一郎に取つては多額の金を直に其の友人に與へまして、高利貸などから金を借りれば、生涯の禍根たる事を懇々忠告いたしました。次男は何事をするにも、能く前後を考へて、身分相應に、又出来る丈け友人などにも深切助力をいたしてをります。

親と云ふものは、善ければ善いで心配するものでございますから、『我れに終身の怨あり』と、家康が申しました様な事は決してなくとも、健康とか運命とかに就て、心配すれば限がありません。斯様に子供の教育と申しますものは、骨が折れます代りには、骨を折れば折る程また楽しみも多いものでございます。

七 家庭と子供の善悪

富者が子息を苦學せしめんとする弊

今日の或富豪中には、自分の立志時代に鑑みて、その子供をして自分の昔のやうに、苦學して人と爲ようとする方も往々あるのを見受けますが、これは却つて其の子供のため宜しくありません。何故かと申しますのに、その子供の父たる富豪が、自分の立志時代に苦學したのは、學ばんとしても學費はなく、どうしても苦學しなければならぬ境遇にあつたのですけれども、その子供は之に反して、學ばんとすれば學費がない譯ではなく、二人の間には境遇が違ふばかりでなく、第一心持が違ひますから、却つて父を恨むやうになり、延いては自暴自棄の心を起すに至るものであります。現に私は斯ういふ實例に親し

く關係したことがあります。ですから、その子供の思ふ儘に放任して、養澤や我儘をさせることは、固より宜しくありませんが、又一途に苦學さへ爲せれば良いと思つてをられるのも、大なる誤解でございます。總じて子供は、その家の生活状態に應じた適當なる方法に依つて教育させまないと、却つて思はぬ弊害を生ずるものでございます。

家庭を窮屈にする弊害

家庭を餘り厳しくして、窮屈な場所にしてしまふのは宜しくありません。昔から人を善導する職業の宣教師又は教育家等の子弟に、却つて有爲の大人物の少いといふのも、全くこれが爲だと申します。尤も母親が教育家であるのは却て好結果の様であります。どうも母は寧ろ嚴なるも、父をして寛ならしむる事が必要であります。これは母は如何程嚴なりと

も常に接近して居ります故、其の慈愛は自然子供の脳裡に貫徹いたしますが、父は接近する事が少く、餘り嚴格なる時は、母は父の不在の内に之を甘くし、又父の手前を取り繕ひなどして、却て子供をして父を恐怖嫌厭せしむるやうな弊害があるからでございます。一體、父親は何處までも尊敬させねばなりません。けれども恐れさせては不可ません。尊敬させること、恐れさせる事とは全く違ひます。勿論餘りに放任して置きますと、遂には父を父とも思はぬやうな不都合が起りますけれども、然し父親が餘に嚴格に、餘に懸け隔てをしたり、小言を言ひ過ぎたりいたしますと、父を尊敬すると云ふ事よりも、寧ろ父を恐れ厭ふやうになります。そして成るべく父の傍に寄り附かぬやうに、努めて父の姿を避けるやうになります。これは誠に寒心すべき事でございます。誰れでも我が子に悪しかれと小言を言ひ、嚴格にする人はありませんが、過ぎたるは猶及ばざるが如しの譬の通

り、父を恐怖れ、父を避け、父を離れるやうになりますと、父の薰陶感化を受けさせる事が出来なくなります。のみならず父親の有難みを悟りません。父の恩を感じません。父子の情愛といふものが起りません。又自分の家庭が面白くなく、つまらないと、家庭以外に行つて我儘や悪戯等をいたす憂ひがあります。

二七四

父子食卓を共にす

其れ故私共では、父を尊敬はさせますけれども、恐れないうやうに、父子を懸け隔てさせないやうに、父を最も善き友達のやうに思はせるやうに、成るべく父と接近するやうに致しました。能く世間には、父は子供を避けて、自分一人美食したりする家庭もありますけれども、私共では晚餐の如きでも父と食卓を共にして、殆ど同じ食物を供へました。尤も

鳩山は酒を少し飲みましたので、子供よりは一品位多く附けましたけれど、此れ位の事は子供も當然と思つて居りました、中にはお酒の肴ですから、子供の食べ得ないものもありますので、食卓を共にする愉快に就ては差支はありませんでした。そして子供にはゆつくり御飯を食べさせましたから、鳩山は一口お酒を飲みましても、一緒に食べ始めまして、殆ど一緒に食べ終りました。嘗て鳩山の友達が、之を見られて、私は子供と一緒に食事したことは無いと云つて、驚かれた事がございました。

これは眞の一例でございますが、斯様に何事でも成るべく母は勿論父とも一緒にし、父に接近させて、父を恐れないうやうに爲せるが宜しうございます。そして面白く愉快と思ふうちに、行儀は固より總ての有益なる事を教へて良習慣をつけて行かねば不可ません。

女中の如きでも、唯無闇に叱るだけでは、恨みこそすれ、なか／＼行儀など覺えるもの

二七五

ではありません。

それですから、家庭は成るべく厳しい窮屈なものにしないやうに、努めて面白い楽しいものとするやうに心懸けることが肝要でございます。

英雄の子孫は凡庸

昔から英雄の子孫には、父を凌ぐほどの人物が出ないどころか、どうも愚劣な人物の多いのは、歴史が證明してをります。して見ますと、人間と動植物などの改善方法とは、餘程違ふ所があるやうに思はれます。動植物ですと善い種からは善いものが出来ます。それ故例へば馬のやうなものでも、成るべく良い馬と良い馬とを選んで、之を種馬として良馬を得るやうに努めてをります。その他朝顔のやうなものでも全く同じで、それ／＼良種を

得る爲に苦心を重ねてをります。

此の道理から推しますと、善良なる人の子は、善良なる人物となるべき筈でありますけれども、どうも人間は然りません。そして却つて凡種の中から、善良なる人物が多く出ます。これは一體如何いふ理由でせうか。勿論遺傳といふ事はあるには相違ありませんけれども、遺傳よりも何よりも大切なものは、その子供の教育の方法、及び其の周囲に於ける感化の如何といふことでございます。ですから假令英雄の子供で、その遺傳を受けて居つたに於て、教育の方法が宜しくなかつたならば、寧ろ凡人の子にして、良教育を受けたものに及びません。

古來、大人物の子供に大人物が出来ないのも、全く之が爲で、英雄豪傑と云はれた其の人自身は、種々様々な困難と戦ひ、苦心を重ねて、その地位まで進んでをりますけれども、

二七八
願つてその子供に對しては、どうも不行届のやうでございます。例へば彼の秀吉の如きでも、その身は貧賤から出でて、或は衆人より先に起き出で、寒中主人信長の草履を懐中に入れて温め、或は臺所の出費を節約したりなどして、あらゆる辛酸を嘗め、工夫を凝し苦闘を経てをりますけれども、その子秀頼の教育は、宜しきを得てをりませんでした。即ち適當の模範となることは出来ませんでした。のみならず秀吉死去の周圍の感化が極めて悪かつた爲に、彼の通り豊臣家は二代にして、早くも滅亡して了ひました。

此等から考へましても、決して英雄の子供が愚劣なのではなく、その教育感化が悪かつた爲に遂に愚劣にして了つたのです。即ち人間は動植物の如き簡單のものでなく、其の改良に複雑なる教育法を要する次第で、そして適當に教育すれば、其處に大なる向上進歩の跡を見出すことが出来る所以でございます。

英雄も戦後は一婦女子に等し

「天下無雙の勇將も、戦捷の翌日には、一婦女子に異ならず。その傷痕の下に、軟弱無能の品性を隠蔽す。」と、ラコール・テールの申しました通り、天下の英雄豪傑も、戦場に立つては豪いに相違ありませんけれど、一度戦争を終へて、安逸の境遇に復し、家庭の人となりますと、餘程注意しませんと、どうも自墮落に陥り易いのが多うございます。

彼の秀吉の如きも初めこそ様々の苦心を重ね、艱難と闘ひましたけれど、一旦成功の曉になると、忽ち心が弛んで愛妾を置いたりなどして追従を喜び、その子秀頼に善くない感化を與へました。一體秀吉が彼れだけの大業を成し遂げることの出来ましたのも、彼の糟糠の妻が與つて力あつたのでございますから、之をして近世のグラッドストーン、チスレリ

「たらしめば、如何に其の妻に感謝したてでありませう。勿論秀吉とても、十分その妻を其の當時の風俗に於ては妻として待遇したのでございますけれど、一旦功成り名遂げますと、忽ち往昔を忘れて、妻とは殆ど表面ばかり、自分は氣儘勝手に彼あ云ふ不取締な事をしたのでございますから、戦場に立つての秀吉は大英雄で、豪かつたに相違ありませんけれど、家庭の人としての秀吉は、残念ながら模範的と申すことは出来ない人でございます。今日も昔日も、どうも上流には斯ういふ傾向が多いやうに思はれます。

加之に子供と云ふものは、父の感化よりも母の感化を多く受けるものでございますから、父と母、即ち夫妻の知識の程度が餘りに懸隔のあるのは宜しくありません。そして然もその懸隔は、下流よりも上流の方が甚だしいやうでございます。ですから上流の妻になりますと、夫に對して甚だしく畏縮し、恐怖の念を抱いて、其の前へ出ますと、腫物にでも觸

るやうな考へを有つてをる方があるやうであります。斯く畏縮して居る母親は、子供の過失も父親に秘密にし、陰で子供を甘やかし、父親の見る時ばかり體裁を作ります。斯かる子供は表裏があつて卑屈で、又小人となります。不良少年は、多く斯かる家庭から出るやうでございます。又中には圖に乗つて、自分ほど豪いものはないやうに、目下の者に對して傲慢不遜に、夫や子供に對しても眞心から働いてをらないやうな方もあります。昔の大名家などには、兎角斯ういふ例が多かつたやうでございます。

此の夫妻の智の懸隔は、その子供に對して、誠に善くない感化を與へます。それ故昔から、上流の教育よりも中流の教育の方が行き届き、従つて上流よりも中流から豪い人物が出ましたのも、この一事が大なる原因をなしてをると思ひます。何しろ往昔は少し身分が良くなりますと、直に愛妾などを置いたものでございますが、今日は往昔ほど激しくもな

く、又夫妻の智の懸隔も、往昔ほど甚だしくありません。近頃或る一部の人は「昔より今日の方が道徳が衰へた」と申しますが、夫婦間の道徳に就いては私は、昔よりも今日の方が善いと思ひます。前にも申します通り、昔は愛妾を置くにも公然でございましたけれど、今日では——維新前後は例外として——兎に角表面だけは恥づるやうになつてをりますから、夫れだけでも昔よりは善いと思ひます。

近頃、豪い人の子供に豪い人物の出るやうになりましたのを、不思議であると言ふ人もありますけれど、これは非常な間違ひで、決して不思議でも何でもありません。これは全く前に述べましたやうに、夫妻の知識の懸隔が往昔ほど甚だしくなく、又身分財産あつて、母親が多忙で自ら教育が出来ません時は、適當の家庭教師も雇ひ得る如き便利がある爲と、昔よりも今日の方が夫婦間の道徳が進んだ結果に外ならないと思ひます。

八 頭腦を明晰にする法

子供は教育の仕方て親の職業を好む

私は此の職業は嫌ひであると云ふのに、無理に壓制を以て親の職業を繼がせようとするのは、素より可けませんけれど、一體子供と云ふものは天性眞似をする者で、所謂門前の小僧習はぬ經を讀むと申します通り、例へば軍人の子供は兵隊ごつこが好きであるとか、大工の子供は幼小の時から種々の細工をして遊ぶとか、又はお父様が繪が好きであると、見様見真似に繪を畫いて遊ぶとかいふ様に、子供と云ふ者はその父母の職業、その父母の常に好み行ふ事を、自然に好んで行ふ様になるものであります。假令最初は嫌ひであつても、

その教育の仕方に依りまして、遂には親の好む職業を好む様になるものでございます。

又子供と云ふ者は、その父が法律家で成功すれば法律家を、軍人又は醫者で成功すれば、軍人又は醫者を、この上も無い尊い職業と思ふものでございます。

又夫れと同時に、その子供が父と同じ職業を志望いたします時は、父は其の子供の能力を十分見抜くことが出来ますから、その缺點を補ひ、長所を發揮させると云ふ利益もござります。

右の理由に依りまして、私どもでは、二人の子供を父と同じ職業に仕立てて、親子三人共力して國家に盡すことが出来たならば、如何にか幸福であらうと存じまして、二人共法律家となる様に育てて参りました。夫れですから、若し私の家が農家でございましたならば、私は子供の教育方法を全然變へまして、農家に適する様な教育方法を探つたでござ

いませう。

頭腦が明晰でない知識が活用せぬ

如何なる職業でも頭腦の明晰でない者は、一定の知識以上に超越して、何物かを發見するとか發明するとか、又は萬人の及ばざる明晰なる判断を下すなどと云ふことは到底出来ません。

其の内でも特に法律家は、最も明晰なる頭腦を要する職業で、鳩山は「法律家は物理學博物學等の自然を對象として、一定の知識を開發記憶する學問と異り、毎日人間の生活上に起つて来る、豫期し得ざる出來事に對して、一々臨機應變の判断を下し、萬事に應用の才を要するものであるから、廣い知識は素より必要であるけれども、特に明晰なる頭腦を

以て、其の知識を應用することが出来なければ、如何ほど広い知識を持つてを つても、更に其價值なく、従つて法律家としては失敗に終るものである」と豫て私に申して居りました。

それ故私は、二人の子供の頭腦を明晰にすることに就きましては、随分種々な苦心と研究とを重ねました。今次に其の四大要訣に就いて申し述べませう。

食物に就ての注意

頭腦を明晰に致しますのには、身體を健全に育て上げる事は無論大切でありますけれど、單に夫れだけの事なれば、犬猫の動物も之を能くすることが出来ます。萬物の靈長たる人間が、人間獨得の靈妙不思議なる頭腦を發達させますには、然る簡單な事では出来ません。

今次に順を追うて私が實行しました方法を申し上げて、御参考に供します。先づ其の第一は、少量で十分滋養に富んだ飲食物を選んで規則正しく與へ、大食家としないやうにする事でございます。大食して餘り胃が擴張いたしますと、血液が専ら消化機の方へ行つて頭腦が空虚になり、従つて其活用が鈍くなる要があるからでございます。一體私の家の教育方針は、總て鳩山と私と相談して決めましたが、私は家庭にのみ居りましたから、子供と親密になる點に就いて懸念はないと考へまして、私は子供が毎日義務として如何しても爲なければならぬ數種の知育、例へば幼稚園の恩物から漸々進んで、兄の一郎が中學の四年を卒へる頃まで、英、漢、數の家庭教授を私の受持と致しました。勿論私は終日在宅しましたから、總て子供の事を自ら監督し、共に遊んでもやりました。たゞ父上に遊んで貰ふ事は特に恩惠の様に感ぜしめました。そして鳩山には、總て子供が喜び親しみ

二八八
懐く様なことをして貰ひました。ですから或時私の友達が、「那樣に夫許り尊敬させ夫に善い役廻を譲つて、そして自分は、種種面倒な世話をしたり、小言を言つたりする憎まれ役に廻つたのでは損らないではありませんか」と申されましたが、其の時私は「どうせ私の一身は夫と子供の爲に犠牲にする心算ですから、夫と子供の爲ならば何んな事でも喜んで致しますばかりでなく、損得の念なきこそ、眞の慈母の尊き處でございます」と答へますと、其のお方は「私には那樣事は出来ません」と申されたことがございました。

斯様に私共は、子供の教育に就いては夫婦で分擔しまして、前項にも一寸申しましたやうに、食事は極く幼少い時から、私共と同じ食卓で長い間費つて食べました。そして其の際御飯の未だ口中にある内に物を言つてはならぬとか、物を言ふ時は能く咀嚼で嚥下んだ後に言ふものであるとか云ふ事など、總て上品に且つ衛生上にも叶ふやうに食事すること

を、鳩山自身に教へてくれました。

總じて食事は子供の最も喜ばしく感じます事で、何時も莞爾して、程よく話しながら非常に愉快に食べました。加之に極く寛に食べますと比較的少量でも、充分腹に満ちた様に感ずるものでございます。そして食後は同じ食卓で、果物又は菓子と與へました。又神經過敏にならない豫防として、茶辛子其の他の刺激物は十歳を越える迄は與へませんでした。夫れから生水も一切禁じて、年中麥湯を冷して置いて與へました。此の麥湯に致しました譯は、熱湯の冷めたのはよく水と紛れ易いからでございます。

此の大食家にしないで、十分に滋養物を食らせました事は、頭腦を良くしました一つの原因と思ひます。

時間を善用する習慣

昔の人は、子供が終日机に凭つて読み書きをしてをりますと、勉強家であると大層賞めたものでございます。然し今日では、斯う云ふ勉強の仕方は、子供の頭腦を鈍くすると申しますから、私は子供の年齢に依りまして、毎日勉強の分量を定めまして、夫れだけ宛毎日義務として爲せました。そして此の宅での義務を十分果してをりさへすれば、學校の成績などに就ては、少しも八釜しく申しませんでした。斯様にして、一定の義務さへ終りますれば、机を離れて出来るだけ多くの娯樂を實行させました。さうしますと其の際子供は不知不識のうちに、種々な學問を實地に就て覺えます。例へばお彈き、玉突、器械體操、碁、將棋、オルガン、唱歌等の娯樂の中に、誠實、勤勉、廉恥、克己、忍耐、正直、禮讓

などの諸徳を初めとして、視力、聽力、又は思考力の練習などを致します。誠に人間の人格と云ふものは、此の有益無害の娯樂の際に、種々大なる修養を得ることが出来るものでございまして、私共の二人の子供の人格は、鳩山が娯樂の間の丹誠に基くことが多いと思ひます。

勿論、二人の子供をして、父を神の如く尊ばしめ、父と遊び父と語ることを無限の名譽と思はせる事に就ては、私は畢生の思考を凝らしました。併し此の苦心によつて父を神の如く尊ぶに至つた事は後年鳩山が重患に罹りました時、如何に私の心を喜ばせたでせう。又如何に安んぜしめたでせう、實に私は之に優る報酬はないと思ひました。そして鳩山が「自分の病氣は子供に孝行を實現させる機會を與へたのだと思つて呉れ」と申しました時、私は如何にか神に感謝いたしたてでございます。

二九二
鳩山は毎日曜日、大祭日、夏期休暇中は勿論、平常でも夕刻暇のあり次第、子供と一緒に遊び、子供の模範となることを、真に楽しむ様に見えました。そして此の遊戯仲間には私も入れて貰ひました。その遊戯の種類は、おはじき、ナインピンス、凧、器械体操、クローケー、テニス、色々の種類のカルタ、碁、將棋、オルガン、ピアノ、唱歌、ビリヤード等で、又時には鋤を以て畑を作つたり、鋏を以て庭に手入れをしたり、或は兩人各自に花壇を貰つて置いて自ら諸種の草花を作つたり、又時々相撲を取つたり、其の他所有する遊戯を必ず共に致しました。所謂よく勤め、よく遊ぶ習慣を養成し、一つの遊戯に飽きれば又他の遊戯に轉じさせ、實に忙しく興味を以て時間を善用する事の習慣を樂ませました。之が頭腦をよくした第二の原因と考へます。

* * * * *

學問を半解りにせぬ事

次には學問を半解りにせぬ事が、頭腦を明晰にする大原因と思ひます。例へば數學などでも、四則雜題などを夫れはく澤山練習させました。夫れも片假名を覺える頃になりましたと、口頭で問題を出さずに、毎日假名で帳面に問題を書いて與へました。少し大きくなりましてからは、漢字を使ひ、側に假名をつけて置きました。さうしますと自ら之を讀み自ら考へ自ら書く事になりますから、數學一つでも他の種々の學問の補足になります。そして其の問題も極く容易い直に考へられる様なものから、一歩々々と順序を追うて練習させました。ですから私共の子供は學問の難しい事と、試験の心配とは大學卒業迄遂に知らずに通つた事と思ひます。

それと申しますのは、例へば数学の如きものでも、四則雑題から代数にいたるまで、何時でも皆自分で考へまして、特に私が教へた事は殆ど無かつたからでございます。もう一郎が中學の四年になりました頃には、私が問題を出す爲に、一題に就いて一時間も下調に費りましたのに、翌日子供は十分も費らずに出来ました位でございます。ですから此の時分私は夜分は二人の子供の英漢數の下調に随分勉強しました上に、朝は三時半に二人を起して勉強させましたので、睡眠不足の爲に大層瘦せるやうになりました。その時子供等が是れから追々學校の事も、今迄よりは餘計に自修する必要があるので、爾後は宅の稽古を止めて、さうして私にも朝十分睡眠つて呉れるやうにと申出ましたに依つて、私も子供の言葉に任せて、其の後は自宅稽古を全廢しましたが、果して學校の成績は前よりも佳しい位でございます。

爾後大學を卒業いたしました途、學問の事に就いては、子供自身に責任を以て自修し、私共には毫も心配を掛けませんでした。唯試験前などに、夜十時迄も勉強いたしてをりますと、鳩山は「那樣に勉強許りしては可かん」と申して、勉強部屋から子供を連れ出し、相撲を取りなどして、無理に寢室へ連れて行き寢に就かせましたが、或時次男などは「僕には猶勉強する権利があると思ふ」など笑ひながら、戯談に申しますので、私は最少し勉強さして遣つて下さればよいにと氣の毒に思つたこともございました。兎に角學問を十分に解させまして、無理に頭腦を疲勞させないと云ふ事は、頭腦を良くする第三の原因であると考へます。

快活に伸々と成長させる事

次には頭腦を明晰にする爲に、子供の部屋を空氣の流通をよくし、日光の十分入る様に注意致しました。其の爲に私は、子供の部屋は必ず南向の室を選びました。薄暗い陰氣な部屋に入れて置きますと、不愉快な且つ不活潑な習慣が付きますし、従つて其の性質も氣むづかしい卑屈な者となり、連れては頭腦も十分發達いたしません。

又無闇に叱つたり罰したり致しますのは、頭腦の發達に禁物と存じましたから、努めて恐怖の念を起させぬ様に注意いたし、三四歳後は殆ど叱つた事などはございません。勿論子供は父を神の様に尊ばせてありますから、鳩山が訴訟用などで旅行いたしました留守などには、最初は亂暴れた事もありましたが、其の後鳩山が出立の際には二人の子供に、「留守中は必ず温順しくします」と云ふ約束をさせました。そして約束を守りました時は、鳩山の歸宅後、温順しかつたと云ふ事を私から話しまして、若干の金又は品物を褒美として

貰つて遣りました。又若し稀に亂暴をしました時は、父の前に謝罪いたさせました。若し鳩山の旅行が少し長引きます時は、子供は必ず毎日の消息を父の許へ書き送りました。

能く家に依りますと、子供が亂暴れました時などに打擲したり罰したりする人もあるさうでございますが、私どもでは一度もさう云ふことは致しませんでした。どうも叱るの結果が面白くないと考へましたから、私共では惡戯をして亂暴れる事がありましたも機嫌が直りましてから、その惡かつた事を能く話して聞かせまして、父上に詫言はせる事に致しました。尤も五六歳以後は斯う云ふ事も殆ど無かつた様に記憶いたします。入浴なども、鳩山と一緒に入る様に致しました。

鳩山が「一緒に湯に入らう」と申しますと、子供は「有難う」と申しまして、直に鳩山の傍へ駆けて参りました。何事に限らず、何時でも鳩山が「何々と一緒に爲よう」と申し

二九八
ますと、子供は邸内の何處に居りましても直に、「有難う」と禮を述べながら、鳩山の傍に馳せて参りました。

斯様に鳩山の詞には何事にでも喜んで従ふ様に、鳩山を神の様に敬はせましたけれども、毫も鳩山を恐れる様な事はありませんでした。其處で私は、愛と敬とは併行し得るものであると云ふ事を実験いたしました。斯様に、二人の子供が、生來恐怖とか卑屈とか云ふ事を知らずに、常に快活に仲々として、而も多方面に興味を以て成長しました事は、頭腦を能く致しました第四の原因と考へます。

九 親と子

父に感謝の辭を述べさせる

父親に絶對的服従いたさせましたのみならず、殆ど之を崇拜せしめました事に就いて工夫を凝した事は、子供が片言を云ひ得るやうになりますと同時に、父親に感謝の言辭を述べる事を教へましたことも、その一つでございます。

西洋の良家庭では、大抵食事いたします際、食するに先立つて、神に感謝いたします。又寝に就きます時も、簡單に神に感謝いたします。此等の祈禱は、心を清むるには有効でございますが、衣食住を無爲にして神から貰ひ得ると解はしめますから父親の勞力に依つて、今日を無事に暮し得ることを諒知せしめました方が、實際的に有効であると思ひま

して、寢に就く際には、必ず英語で禮辭を述べさせました。これは遂に習慣となりまして、後に既に獨立いたしましたから、知らず識らず英語で、「おやすみなさい」と言ふと共に、「有難う」と禮を加へ述べて、楽しく笑ひ興じました。

又如何なる物でも新調の時は、必ず先づ父に禮を述べさせました。のみならず到來品に對しましても、同様に父に禮を述べさせました。これは、人が子供に物品を贈らるゝのは、即ち父に贈らるゝのである事を悟らしめ、子供は人から物を貰ふ資格もなく、又返禮する能力もないものであるといふ事を知らしめたのでございます。

自ら先づ模範を示す

又私は、子供のをる前で、鳩山に對して絶對的服従の模範を示しました。私は先づ自

分でも子供の前で鳩山に禮を陳べました。旅行に同伴さるゝ際は勿論、日曜日その他の折などに、同伴外出して歸宅いたしました節は、必ず私は直に鳩山に禮を陳べました。そして子供も共に禮を述べました。若し子供が忘れる事がございますと、私から注意して必ず實行いたさせました。

私は鳩山と共に遊び、共に働くことを、名譽の如く、さも愉快のやうに見える様に努めました。のみならず、自分も衷心から然う思ふやうに試みました。時あつて、鳩山が夜十二時頃歸宅いたす事もございましたが、何時も外出の折は、斯くまでに家族の爲に勤勞さるゝ事を、子供に思はせるやうに注意いたしました。

その他、鳩山の日記を読みまして、鳩山が學生時代の履歴を熟知しまして、其の教訓になる事は之を話して聞かせましたりなどして、私は、子供と父親とを親密に接觸せしめる

事に就きましては、心から喜んで萬事出来る限りを盡しました。その爲に子息等は、今日實に父親の恩に感泣致してをります。

此の精神が、二人の子息をして、常に奮闘努力せしめつゝあるのでございます。

父親を尊敬させた効果

子供をして父親を尊敬せしむることは、その教育上に偉大な効果を持ち來します。鳩山の祭事の折に、一郎はその祭文の中に、左の言を申しました。

「父上は御性穩にして、怒らせ給ふみけしき少しも見え給はず、詞少く明けく、起居舉動輕々しからず、又何事に就きても、驚き給ひ、騒ぎ給ひ、堪へかね給ひしなどいふ事は露見しことあらず、御暇の折には……(中略)畑に出で、躑とりまして、野菜物を作り給ひ

或は木鉢を携へまして、園生の草木を作ろひ給ひ、常に御心を慰め給ひ、……朝夕の物を食し給ふにも、三度の外は少しも物し給はず、別けて品を好みだて、物を選び給ふ事は露なかりしが、身の滋養となるべき物に御心を注ぎ給ひ、……身に召しける物も、清くすがすがしき物を用ゐまして、殊更に擇び給ふことなかりき、……思ひ廻らせば、父上には一郎始め弟秀夫を、いとよく恵み慈みまし、は更なり、別けて己等の教育につけては、いと事繁き御身にましつるに、自ら幼き童の心になりまして、共に遊び、共に戯れ給ひ、己等の人格養成といふことに深く御心を注ぎ給ひしが、己等漸う人となりつるも、未だ廣き厚き御恵の萬分の一も報い奉らざりしに、去年の今日、一生を終りに、己等を跡に残して眠り給ひし事、悲しく慕はしき極みなり、……父上には、永き年月御心に抱き給ひ、思ひまし、事業は、略爲し給ひしも、未だ全く其事どもを爲し終へ給はざりしかば、親しき友たち、之

を借しみ給ひ、父上の後継者たる己等兄弟に同情し給ふの厚きも、全く父上が現世に在して、勞き給ひ、盡しまし、徳澤の遺れるなりけり。是を思ひ彼を思へば、かへすがへすも父上のありし昔を思ひ出で、偲び出で、今ははた胸もはり裂くばかりなり。今より後は、父上の現世に在して、教へ給ひ戒めまし、事共を心に銘みて、露忘るゝ事なく、朝に勤め夕に勵み、父上が特に一郎に希望し給ひし事業を爲し遂げ、以て孝の終りを全うせんと、眞心もて誓ひ奉れば、在天の父上にも、之を聞し召して、御心安く思し召し給へ……云々

又在獨逸の次男秀夫が、同日認めし手紙の中にも、左の言がありました。これは素より手紙の事でございますから、文辭に心を用いたものでない事は勿論でございます。「亡き父上の一週忌なれば、今日は夫の一番二番の表坐敷にて、追悼祭典を営まるゝ事と

存じ候。遙に異郷に放浪する身の、御墓参も出来ず、親しき人々と父上の事を語り合ふ術もなく、獨教會に跪きては父上の御幸福を祈り、御冥眞の前に、好み給へる花とて、純白の薔薇を供へては、木鉢持ちて庭園を遊歩し給へる御姿を想ひ浮べ候。

教會に跪きて、想ひては祈り、祈りては又想ふ事三十分、その折々の面影眼の前に浮び御慕しき限りに候。徒に父上より受けたる御恵のみ多く、報いまつりし事言ふに足らず、吾等今不自由無く日を送り得ること、一に皆父上の御恵なるになど想ひ回らせば、尙せん術も無かりしかなど思はるゝに候。

白駒の過ぐる何ぞ早き、今は既に一年に候。小子の洋行の事を喜び給ひ、出發期の早からぬを喜び給ひ、小子の身體をさへ考へ給へる事、最後の御手紙を戴きて、平井鐵道院副總裁を訪問したることなど、粹々と胸に迫り候。あの手紙を平井氏に渡したる事の、今更

に残り惜しく候。最後まで希望を持ちて、雄々しく不治の病と奮闘し給へる父上よ、小子は父上に倣ふべく候。其勇氣もて、忍耐もて、其誕生もて、而して其希望と安心立命とを以て、小子を誘ふ世の敵と闘ふべく候。小子の道を邁進すべく候。

「偉大なる人格」それを標的として、邁進すべく候。「社會改善」それを目的として勇往すべく候。

父上は小子の將來に安心し給へり。其信頼に報いざる可らず。父上よ安じ給へ。斃れて後止む、斃るゝ迄は、家の爲め國の爲め、而して社會の發達の爲に勇往邁進すべく候……父上の御寫眞を見上げ、其温平たる風采を拜し、「働けよ」の聲に闘され候。自己の事業の成れるを見て、眠に就くを得る人は幸福なるべく候」

之を要するに、所謂夙に興き、夜に寝ね、爾の所生を忝しむる無れとは、兩子現今の決

心でございまして、斯くして兩子は、確に亡き父親の靈を慰むべく、出來得る限り奮闘しつゝある事は、私の熟知する所でございます。こゝにおきまして私は、父親を尊敬する事を教へました効果の多い事を、深く神に感謝いたしてをる次第でございます。

酒と煙草に就いて

一郎と秀夫が尋常中學の時代のことでございます。或日私は兩人の子供に向ひまして、「私共は、子供に悪い習慣を付ける事は、親として大なる罪惡を犯すことになるのであるから、之を嚴禁せねばなりません。即ち酒及び煙草は人間心身の發達期には、殊に其害毒が甚だしく、頭腦も爲めに遲鈍になると申すからは、親が子供に毒を供給すると云ふ事は、斷じて爲る事が出来ません。尤も成人して、獨立期に至れば、その害毒も發達期程ではな

三〇八
からうから、獨立した後は、各自自分の判断で如何ともするのは自由であるけれども、親の監督の下にある際は、決して酒と煙草は用ひてはなりません。親が之を用ふるために、眞似をするやうな恐れがあるならば、私も今日此の時から、煙草を全廢します。」と申し聞けました。——元來私は、酒は好みませんが、煙草は選舉競争の際に、來客接待などで喫み覚え、殊に姑及び夫も寧ろ勧めました爲めに、遂に之を嗜むやうになりました。尤も鳩山の病氣と共に、私も之を嚴禁しまして、爾來鳩山に同情する一端とも感ぜられません所から、終生煙草を全廢することに決心いたしました。——兎に角心身發達期に於ける酒と煙草の害毒に就いて話して聞かせますと、兩人の子供の申しすには、
「母上の御身體に餘り障らぬ限り、僕等のために煙草をお廢しになるには及びません。僕等誓つて母上の仰せを遵奉し、各自獨立するまでは、酒と煙草は嚴禁いたします。この事

に就いては毫も御憂慮下さいますな」と答へました。

その後各自獨立いたしましたして、自由になりますにも拘らず、この永い間の習慣の爲に、依然酒も煙草も節して居ります。一郎は性來餘り好まぬ様子でございますし、秀夫は克己する様子でございます。

頭から嚴命せず相談的に諒す

私は、何時も子供の世界をやきます時に、「親の監督時期に、惡癖惡習慣を付けるのは、親として罪惡を犯すのであるから、之を嚴禁しなければならぬ」と申す事を、相談的に申し聞かせました。そして頭から權柄づくに嚴命するやうなことは、決して致しませんでした。その方が又子供も衷心から約束的に私の申し聞けを服膺いたしました。

斯様にいたしまして、人生獨立と云ふ事の如何に尊きかといふ事を、暗々裡に悟らしめました。

三〇

親が子供を養育する時期、換言すれば、親の勞力に依つて生活し得る間は、子供は絶対に服従の義務あることを申し聞かせました。之と同時に又、成人獨立しました曉は、親は子供の自由を妨げないといふ事を知らしめました。斯様にして教育しますと、獨立しました後も、子供の理想は矢張り親の理想の進歩したものと成りますとも、決して親を失望させるやうな事はないやうでございます。

獨立の氣象の養成

如何に立派な親を持ちましても、子供は成人いたしました後は獨立いたしませんと、世

は次第に退歩して了ひます。生涯親の罵を喰ちるやうな人間ばかりでしたら、國家は忽ち滅亡して了ふだらうと、常常申し聞けました。

又人は先づ自身が誰れにも厄介にならず、誰れにも悪影響悪感化を及ぼさぬ様に努力することが肝心であると同時に、出來得るならば、少しでも同胞兄弟を助け、世人を善化し、以て家の爲め國の爲め社會の爲めに盡すべきものであると云ふ事を教へました。自分の身を修め、獨立することさへも出來ないのに、徒らに大言壯語するのは大なる誤りで、順序を顛倒したものである、物事は總て小より大に至り、内より外に及ぼすべきものである。それ故に孔子も「其國を治めんと欲する者は、先づ其家を齊ふ。其家を齊へんと欲する者は、先づ其身を脩む。其身を脩めんと欲する者は、先づ其心を正しうす。」と教へられたのであると、常々話して聞かせました。其れが爲に獨立と申す觀念は、私方の兩子の腦裡には餘

三一

程深く印象されてをりました事を、鳩山の永眠後に今更のやうに發見いたしました。

鳩山の遺産は餘り多くはありませんが、兩人とも少しも各自に繼承する事を好みません。即ち單に不動産の大部を一郎の名義に致しまして、その收入のありますものは秀夫と折半いたし、動産は殆ど全部を私のものにせよと、一郎が言い張りました爲め、只今は先づ稍その形になつてをります。

これは西洋風では珍しい事ではありませんが、家族制度の日本に於きましては、全く幼少から獨立の精神を養成しました結果であると存じます。

10 長男の結婚

嫁の選擇は一切子息に任せる

長男の一郎は、帝國大學を卒業致しますと、妻を迎へたら何うかといつて、知合の方がいろいろお世話して下さいました。そのうちには随分地位の高い人のお娘さんもありました。家柄の尊い人のお娘さんもありました。けれども一郎の望は、地位や家柄ではなくてよく氣質の知れた、後後になつてもお互に失望せぬやうな人と結婚したいと申すのであります。勿論私どもの妻ではなくて、一郎の妻ですから、何より當人の氣に合はなければなりません。それで私どもは嫁の選擇を一切一郎の考に任せました。

三人
當人同士の氣心も知れて来た

嫁は、女子學院を出ましてからは、家庭で獨習をいたして居りましたが、間もなくアスポンといふ西洋人と、その親友のミス、ハサウエーといふ西洋人のところへ、預かつて頂きました。アスポンさんは一郎の小さい時から先生で、一郎の氣質をよく知つてゐらつしやいます。それで、アスポンさんとミス、ハサウエーさんに預かつて貰いて、一郎の氣質に合ふやうでしたら嫁にするし、合はないやうでしたら、私の子にして他へ縁づけようと思つて居りました。

嫁は、アスポンさんとハサウエーさんのところへ行つてからも、日曜日には家へ来て一郎や弟の秀夫と一緒になつてをりましたので、當人同士もお互に氣心が知れてまゐりました。

た。それにアスポンさんも頻に勧めて下さるし、次男の秀夫も勧めますので、いよいよ嫁に貰ふことに極めて、明治四十一年九月十八日に式を挙げました。

別居する位なら結婚せぬ

私は嫁で嫁を貰つたら親子別居しようと思つてをりました。姑と嫁と一緒にをりますと、嫁は要らぬ氣兼ねや苦勞をしなければなりません。又夫に事へる傍ら姑にも事へるやうになりますと、自分の自由の時間がなくなつて勉強も出来なくなります。ですから一郎も別居しようと思いましたが、一郎は何うしても承知しません。

「私はお母さんのために生きてゐるのだ。」と、不斷から申してをるくらの私を愛してをりますので、別居するほどなら獨身で暮すと言つて聞き入れません。私にしたところで

今まで一緒にゐた人が俄にゐなくなると寂しくなります。それに私のところは家の割に人数が少いから、若し秀夫が洋行した後で、鳩山が旅行でもしますと、私一人で不用心だと申して、一郎は別居に同意しません。それで當分試に一緒にをることにしました。けれども私はいつでも別居する覺悟で居ります。

嫁には姑の世話をさせず

けれども今までの日本の家庭のやうに全く一緒になつてしまひましては、嫁はたゞ無益に時間を費す恐れがありますから、一つ屋根の下にはゐても、お隣あひ同士ぐらゐのつもりで、室も別別にしてをります。仕事も、これこれはすること、その他はしないこと、ちやんと極めてあります。

無論嫁には私どもの世話はいたさせません。私どもにお客があるからといつて、その應接に出たり、また私どもの用をしたりしてゐては、一郎のことが疎かになります。ですから、そんなことは一切構はずに、ただ一郎の世話だけすることにしています。また私もあまり嫁に世話をやかさせません。讀んでよい本があれば、それに記號をつけてやるぐらゐで、總て嫁の自由にしてをります。仕事なども、したければするし、したくなければしないといふ風に、極く自由にしてをります。

成るべく嫁の自由にする

尤も食事は一緒です。然し、これとても必ず一緒にするといふ譯ではなく、食時の時間を定めて、その時に間に合へば一緒に食事をしますが、間に合はなければ、遅れて食べる

ことにして居ります。ただお晝飯だけは、鳩山も居す、一郎も居す、嫁と二人ぎりですから、いつでも一緒に食べます。

臺所は一緒です。私は最初臺所も別別にしようと思ひましたが、それでは餘り他人行儀になりますし、鳩山も、小人数の家でそんなことをする必要もあるまいと言ひますので、これは一緒にしてをります。とにかく私は、なるべく多く嫁の自由な時間を作つて、學校へ行つて勉強をするなり、ピアノの先生のところへ行つて教はるなりすることの出来るやうに努めてをります。

嫁を買つて豫想外に楽しい

私は、嫁を買つたら別居しようと思つて居りましたが、かうやつて一緒にをります

と、絶えず一郎の顔も見られますし、御飯も一緒に食べられますし、また今何をしてゐるかといふことも知れますから、安心も出来て、別居生活には求められない楽しみがあります。私は、嫁を買へば、こんなに楽しいものとは、これまで少しも思ひませんでした。この間ある西洋婦人に會ひますと、「あなたも子息さんを一人失ひますね。」と申されますから、私は、「いいえ、失ひません。」と答へました。すると、その婦人は直に言ひかへて、「あ、娘さんを一人儲けられましたね。」と申されました。

實に私がかうやつて、一つ家に一緒に毎日楽しく生活してをりますと、子息を失つた所ではなく、却つて娘を一人儲けたやうになりました、實に豫想外の愉快を覺えて居るのでございます。(明治四十一年十一月)

一一 次男の結婚

〔洋行するからとて結婚を断る〕

長男の一郎と次男の秀夫とは一つ違ひで、一郎は明治十六年一月、秀夫は同十七年二月の生れであります。

秀夫が大學を卒業しますと、知合の方のうちには、妻を迎へたらよからうと言つて、御深切にお世話をして下さる方も澤山ございました。そして私もいろいろ勧めてみました。けれども秀夫はどうしても結婚すると申しませんので、つひその儘になつてをりました。秀夫は、晩かれ早かれ外國に留學することになるでありますから、獨身の方がよいと申

すのでございます。

さう申されますと、なるほど尤もなことで、何も急いで妻を迎へる必要はございません。それに餘り煩さく勧めては、却つて自分たちが早く安心したために強ひるやうに當りませぬ故、無理には勧めませんでした。すると一郎は、自分が妻帯してゐるものですから、秀夫にも妻帯させたいと思つて、洋行するにしても、その前に極めて置いた方がよからうと、秀夫に勧めました。

兄の勧めによつて承諾す

一郎は、何と言つて勧めましたか、さすが頑固に拒んでゐた秀夫も、一郎の勧めでその氣になりました所へ、大學の先生たちも、いろいろ勧めて下さいましたものですから、熱

考に熟考を重ねた末、遂に私どもの意に従ふことになりました。

秀夫は不思議なほど一郎と氣が合つてをりまして、一郎の申すことには大概同意いたしますし、また一郎も、秀夫の申すことには、いつも賛成いたします。

「一つ違ひで年が大抵同じだから、考も同じなのだらう。」と、夫も不思議がつてをりますが、兄弟の仲のよいのは何より結構なことで、私共も誠に安心してをる次第でございます。

學問に同情ある人を欲しい

一郎の妻の薫子は長らく西洋人について勉強したり、家庭で獨修したりして、學問もでき頭もようございますが、學校には餘り長く通ひませんでしたので、世間では綴好みで

貰つたやうに思つていらつしやる方もございます。ですから秀夫の妻には是非とも學者の家から貰ひたいと心がけて居りました。それに秀夫は學問が好きでございますから、「學問を尊ぶ家に育つて、學問を尊ぶ人でなければ妻に迎へない。」と、常に申してをりました。勿論、夫が學問を好みますのに、妻たるものが學問に同情なく、研究の妨げをするやうでは、家の中が圓滿にまゐる筈がありませんから、私共も、學問に同情のある人と望んでをりました。

秀夫と婚約の千代子さんは、菊池大麓さんの令嬢で、お茶の水の高等女學校を最優等で卒業されて、その後は、二葉會や、その他、専門の先生について勉強してをりますが、學問ばかりでなく、氣立も優しく、大勢の兄弟の中に育つた人ですから、素直で、他の人と折合もよいので私共はこの上もなく満足してをります。それに、菊池さんのお家は代代

學者を出されたお家で、菊池さんも大學總長をしておいでになり、お子さんたちの教育も
行届いてをりますし、千代子さんは今申す通りでございますから、秀夫も只今では満足し
てをります。しかし、かういふお話をしては、秀夫が厭がりますから、これ位にしてよし
ませう。(明治四十三年三月)

我が子の教育 (終)

大正八年十一月廿日印
大正八年十一月廿五日發 行

定價金壹圓五拾錢

版權
所有

著者 鳩山春子

發行者 東京都河龍

印刷人 東京市牛込區加賀町一丁目十二番地 岩

印刷所 東京市牛込區加賀町一丁目十二番地 秀英舎第一工場

行所 東京市牛込區加賀町一丁目二十四番地

婦女界社

振替東京二〇二八三



柳川春葉絶筆□緒崎英朋畫並裝釘 (好評三版)

家庭世間

(編前)

小形美装函入七百廿二頁
三頁大美入畫二葉挿入
定價一圓五十錢郵税八錢

本書は明治から大正へかけて、家庭小説の大家として盛名を馳せし故柳川春葉先生が、この世に置土産にされし雄篇にして、曾て「婦女界」誌上に掲載して同誌三十萬の愛讀者を熱狂せしめし先生最後の一大傑作で、同時に先生の絶筆であります。言に盡あり、句に涙あり、眞に先生を追憶すべき好箇の記念で、尙巻頭には先生最近のお寫眞、末尾には先生の人格を偲ぶすがにもと、先生臨終の記及び書簡等を附録として添へてあります。

柳川春葉遺案 晶々生作□石井朋昌裝釘並畫 (新刊)

家庭世間

(編後)

小形函入美装三百五十八頁
コロタイプ印刷畫二葉挿入
定價一圓二十錢郵税六錢

家庭小説「世間」は作者柳川春葉先生が稿半にして故人となられし、悲しき思ひ出深き傑作であります。その後これが掲載誌「婦女界」の愛讀者の方々から、「世間」の續きが見たいといふ熱心なる希望が、難しく、幸ひ春葉先生の遺案がありましたので、文壇の大家にして故人の作物に多大なる興味を持つて居らるゝ某先生にお願ひ致しました所、快く御承諾下され、晶々生といふ匿名の下に稿を續けて頂く事になり、之を「婦女界」に連載致しました所、同誌三十萬の愛讀者に春葉先生自ら御執筆なされしものと同様なる期待と満足とを與へ、一篇の興味の中心たるヒロイン妙子の身の上の奇しき運命に、めでたき解決を與へられし最も興味深き傑作小説であります。

柳川春葉作 石井朋昌裝釘普畫 (改訂再版)

家庭 五人姉妹

四六判美裝全一冊
紙數三百九十頁
定價金壹圓廿錢
郵税金八錢

「生さぬ仲」、「二人静」、「憂き身」等の作者として文壇を風靡せる柳川春葉先生が、嘗て一年有半の間
に亘つて雑誌「婦女界」誌上に連載せられ、非常な評判となつた小説を一冊に纏めたものが即ち本書で、
同じ様に嚴格な家庭に育てられた五人の姉妹でも、長女の夫は日露の役で戦死し、次女の夫は職に就れ
三女の夫は狂死し、四女は淺ましい虚榮の爲に離縁となり、五女は四人の姉の不幸を見て遂に獨身で通
す事に決心するといふ風に、その性情が箇々に異つてゐて、夫々に悲しい運命に支配されて居ります。
之を一讀三讀致しますと全篇到る所に於て作者の健全なる人生觀や道德觀を窺ふ事が出来ますので、早
に之を小説として許りてなく、眞に一箇の力ある教訓書として、又修養書として、廣く皆様にお薦め致
す次第であります。

婦女界記者 千葉春村作 石井朋昌畫 (大好評六版)

繪畫 若き母

三五判美裝全一冊
紙數二百五十頁
定價金三十五錢
郵税金四錢

「若き母」は家庭の若き主婦を主人公とし、嫁姑の間から起る家庭の悲劇を主題として、婦人の貞操
の勝利を描いた最も健全にして且つ興味深き家庭小説であります。されば一度「婦女界」誌上に連載さ
るや、その二十萬の讀者をして熱狂せしめたのも素より怪しむに足りません。殊にこの小説は我が國に
於ける繪畫小説の最初の試みで、文歌へは繪舞ひ、文悲しめば繪泣くといふ風に、奇しき文章と美しき
繪畫と兩々相俟つて、そこに一卷の美麗なる繪巻物語を成したのであります。されば最も興味深き健全
なる家庭の好讀物といふ好評の下に、初版再版は早く既に賣切れとなりましたけれども、其後皆様から
頻々と御注文がござりますので、今回又々重版致し、皆様方のお需めに應ずる事と致しました。

婦女界記者 千葉春村作 口石井朋昌畫 (好評四版)

繪畫小説 誘惑

四六版美裝全一冊
定價 金四十五錢
郵税金 四錢

幼にして父を失ひ、愛に飢ふ貧に泣き濡れし美しき少女二十、嫁して清き心を夫の温かき胸の中に珠と磨く、美しき人の美しき心よ、それは例へば春の光に咲き匂ふ花が、その花の如く美しき人に襲ひかゝる誘惑の魔風、それは例へば花に寄り集ふ蜂か、その密の如く甘き言葉の中に鋭い刺が隠されてゐる。作者獨特の繪畫小説、文行けば繪從ひ、文悲しめば繪泣くといふ美麗なる繪卷物語、一卷取て春の目永、秋の夜長の好讀物としてお勧め致します。 昌畫 (大正初六版)

婦女界記者 千葉春村作 口石井朋昌畫 (好評四版)

繪畫小説 荒浪

四六版美裝全一冊
定價 金四十五錢
郵税金 四錢

奇しきは人の運命、まして美しき人の奇しき宿命、そこに詩があり小説があるので。本書は「誘惑」の續篇で、夫は妻の消息を知らず千軍萬馬の間に死を顧みず、運命のまゝに身を委し、妻は夫の在所を知らず幾度か危き浮世の荒浪に揉まれ揉まれる。彼は飛行機の上、此は車の上、さても夫妻の運命ほど奇しくも亦悲しく恐しきはない。例によつて文行けば繪從ひ、文悲しめば繪泣くといふ一巻の繪卷物語で、作者獨特の繪畫小説であります。

小山内薫作 □石井朋昌畫 (好評四版)

繪畫小説 心の華

四六版美裝全一冊
紙數百三十四頁
定價金四十五錢
郵税金四錢

男爵の次男と生れ、飛行機研究の爲に遠く米國に遊學した潔君が、愈々業成りてめでたく歸朝する所から筆を起し、彼の雄々しき生涯の活躍振りを主題とし、夫人照子と兄晴雄との間の奇しき運命を經とし、一輪色も香も美しく香ばしき心の持主花子の義侠を縁として、作者獨特の才筆を呵して花の井男爵家の愛のロマンスを物語り、朋昌氏の繪は錦上更に花を添へ、かくて美麗なる繪物語を成したのであります。

大倉桃郎作 □石井朋昌畫 (好評四版)

繪畫小説 産聲

四六列美裝全一冊
紙數百三十六頁
定價金四十五錢
郵税金四錢

本書は有名なる家庭小説「琵琶歌」の作者が、非常なる意氣込みを以て執筆されし、實に第二の「琵琶歌」といふべき苦心の傑作であります。殊に此の小説は婦人に取つて最も嚴肅なる、最も感銘深かるべき「出産」を、恰も藝術家が一つの偉大なる藝術品を作成する敬虔なる態度に擬し、一人生を創造する事業として尊重し、之に伴つて起る愛の葛藤を作者得意の美文と、毎頁挿入せる美しき繪とによりて物語れるもので、婦人必讀の最も興味深き傑作であります。

婦女界編輯部編

口繪十二月

(第二輯) 菊判美裝全一冊
定價 郵稅 共
金 二十五錢

本書は大正六年度の婦女界を飾りし十數度刷りオフセット版の美人畫を集めしもので、何れも當代一流の大家の筆に成りしものです。その内容は左の通りであります。

- あけぼの(二頁大).....池田蕪園筆
- 厨にて.....島 成園筆
- 雛節句.....池田輝方筆
- 白 桃(二頁大).....鈴木清方筆
- あねむり.....北野恒富筆
- ほたる.....伊藤小坡筆
- 新 月(二頁大).....齋崎英朋筆
- 朝.....池田蕪園筆
- 獨唱のあと.....島 成園筆
- 秋深き朝(二頁大).....鈴木清方筆
- 親しきたより.....伊藤小坡筆
- 遊く年.....石井朋昌筆

口繪十二月

第一輯 (賣切絶版)

婦女界編輯部編

口繪十二月

(第三輯) 菊判美裝全一冊
定價 郵稅 共
金 三十錢

本書は大正七年度の婦女界を飾りし十數度刷りオフセット版の美人畫を集めしもので、製版頗る精巧を極め、さながら肉筆を見るの觀があります。

- 海邊の松(二頁大).....上村松園筆
- さゝなき.....栗原玉葉筆
- 櫻.....齋崎英朋筆
- よそほひ(二頁大).....齋崎英朋筆
- 緑の雨.....伊東深水筆
- 舞支度.....鳥 成園筆
- 虹(二頁大).....鈴木清方筆
- かや火.....石井朋昌筆
- 野の花.....栗原玉葉筆
- 露の前に立ちて(二頁大).....池田輝方筆
- 初霜の朝.....今村玉江筆
- お買物.....森田久筆

口繪十二月

菊判美裝全一冊
定價 郵稅 共
金 二十錢

本書には、口繪十二月第三輯の中、二月と六月とが缺けてゐるのみです。

標見まきみに

明日あすは父ちちよと

ちぎりおきて

子は寝いねたるを

雨降あめふりいでぬ

□

雨あめもよし

干飯ほじいなどを

炙ある側の

墨すみを走る

子等こらが自動車じどうしゃ

勤いそめにと

出いてませし後あと

六疊むすまゝの

筆筒ふでづの前に

たむむふだん着き

□

洗濯せんたくに

今日けふも半日はんじち

つひやして

のころ半日はんじち

子等こらと遊あそべり

「婦女界」主幹 都河 龍著 (好評三版)

子供を丈夫に育てる秘訣

小形美装全一冊
紙數百七十五頁
定價金三十五錢
郵稅金四錢

本書は七人の子供を悉く丈夫に育てた實際の経験を何方にもお分りになるやうに極く平易に且つ深切に書いたものでありますから、育児上御参考になる點が多からうと信じます。殊にまた御経験の乏しい若いお母様方が、斯ういふ場合には何うしたら可いものであらうかと、お迷ひになるやうな時に、深切な御相談相手になつて、一々適切な方法をお知らせする事が出来るやうに詳細に平易に深切に書いてあります。

工學博士 吉武榮之進序 元東京府立 織染學校教諭 菱山衡平著 (再版)

實用衣類整理法

天金總クローズ
箱入頗る美本
紙數三百六十六頁
定價金一圓七十錢
郵稅金十二錢

本書は家庭に於て直ちに實行し得ることを主眼とし、同時に女學校の家政科参考書に適するやうに著者が多年實地の経験から得た剴切なる研究を發表され、丁寧懇切に述べられたもの故、女學校の生徒及び教職員諸氏は勿論、苟くも一家の家政を預かる主婦方が一本を座右に備へて置かれましたならば日常生活上何彼につけて非常に便利で、一日も手ばなす事が出来ないであらうと信じます。

子に遺るに黄金産に満
つるは、一經に如か
ず——節漢書

婦に長舌あるは、維厲
る、階なり。——詩經

故きを温ねて新しき
をすれば、以て師と爲
る可し。——論語

子一以て之を貫く。——
論語

□新米 (米) (米) (米)
この間家では鶏屋で取
り換へたミノルカとい
ふ鶏の脚に、一目で見
分けのつくやうにと赤
い布を結びつけて置き
新米々々と呼んで居り
ました。すると或日隣
の要ちゃんが足を傷め
たのか、赤い布で纏帯
なして来たのを見て、
五つになる鶴子が「あ
ら要ちゃんも新米にな
って？」(たまま)
評、これが本當のと
り違へてすから要
ちゃんあしからず

東京高等女學校長 棚橋絢子著 (好評再版)

婦人小學訓

四六判全一冊
定價金六十圓
郵税金四圓

「小學」は四書五經の中から、特に人倫五常の道を説いた命言玉句を
抜萃したものでありますが、棚橋先生は漢籍に造詣深く、殊にこの小學の
講義を最も得意とせられ、數十年來、女學校に於て之を講義して居られま
す。本書は「小學」の中、特に人の子の母たり親たる方々の修業上、最
も必要なる部分を抜萃して、先生が得意の註釋を施されたものでありま
す故、家庭教育上この上なき好参考書であると共に、一般子女の修業書と
しても絶好のものであります。

婦女界編輯部編 (五版)

家政百箇條

テツブ綴
紙數八十頁
實費金十錢
郵税金二錢

- (内 容)
- 食品の見分方と蓄へ方(七項)……
 - だしの取方と調味品の用方(五項)……
 - おいしい漬物のつけ方七種……
 - スープとソースの作り方十種……
 - お掃除の仕方(六項)……
 - 器物の取扱ひ方(六項)……
 - 衣類の保存法(七項)……
 - 洗濯の仕方と糊の作り方(八項)……
 - 素人に出来る汚點抜き法(十五項)……
 - 洋食と日本食のたべ方(十項)……
 - 訪問と贈物の心得(六項)……
 - 美顔法、美裝法、美髪法(九項)……
 - 手軽に出来る手當と療法(十一項)……
 - 郵便に關する心得(三項)……
- (但し郵税は一冊でも二錢、二冊三冊取揃へても矢張り二錢です)

婦女界編輯部編

(再版)

實驗百種家庭重寶記

紙數八十頁
實費金十錢
郵税金二錢

(内容)

(但し税郵は一冊でも二錢、二冊三冊取揃へても矢張り二錢です)

□自動車は高い(貧窮)
この間宅で夕飯後皆で何かの話の序に「家にも自動車があるといふな」と申しますと、これを聞いた尋常一年の徳子「自動車は高いんですよ、一圓も二圓もするんですよ」(みち子)評なるほど自動車は高いものですね一圓も二圓も、そんなにするんですか。

- お雑煮と餅のいろく(十項)……
- 交ぜ御飯十種……
- 和へ物六種……
- 變つた漬け方十三種……
- 御手軽に出来るお菓子とパン……(四項)
- 珍料理と一寸した注意(十六項)……
- 簡単な貯蔵の仕方(六項)……
- 住居や器物等の清潔法(十二項)……
- 衣類に關する一寸した注意(十項)……
- 是非必要な洗濯の心得(十項)……
- 家事經濟に關するもの(二十項)……
- 頭髮と顔の手當法(八項)……
- 一寸した病氣の手當(二十一項)……

主婦の歌へる

ものたらぬ夜の心を炭の屑火桶にあけて慰めにけり(前原はるき)
めづらしく君にをさなご預けおき身輕に出でし日曜の朝(前原いし子)
湯上りの體たよきて父上はまたふとりぬと喜ばれけり(前原兼代)
夫はもこの頃まことすこやかになりて來しかな嬉し春の日(高橋よじの)
貧しさは君とわれとにあぢきなく争ふことを教へけるかな(北島静英子)

甫守謹吾先生閱 □婦女界編輯部編

家庭日常禮法

紙數八十頁 實費金十錢 (但し郵税は一冊でも二錢、二冊三冊取揃へても矢張り二錢です)

(内容)

- 坐作進退に就ての心得 (十四項)
- 物品の取扱ひ方 (二十二項)
- 贈答に就ての心得 (七項)
- 訪問及び接客に就ての心得 (十三項)
- 男女禮裝に就ての心得 (六項)
- 日本風饗宴の一斑 (九項)
- 西洋風宴會の一斑 (七項)
- 新婚出産及び年賀 (十九項)
- 葬祭に關する禮 (十二項)
- 年中行事の主なるもの (九項)

糸 左近編

通俗家庭療法

紙數八十頁 實費金十錢(但し郵税は一冊でも二錢、二冊
テツブ綴 郵税金二錢(三冊取揃へても矢張り二錢です)

(内 容)

- 素人診断法及看護の心得 (十一項)
- 素人藥物顧問 (十八項)
- 症病顧問 (十七項)
- 育兒の心得と小兒病手當 (十六項)
- 出産時の心得と婦人病の療法 (八項)
- 救急療法 (二十項)
- 湯水療法 (十二項)
- 食餌療法 (九項)

□ 主婦の歌へる

弟を養子にやるといひし夜をわれ
ら寂しく簀取りにけり(保田高津校)

いさゝかの勤定手にしふるさとの父
母の許へと爲替するかな(三好たみ子)

草を投げ花を投げては 鶏の羽ばた
くさまに興かれり子は(二カちか子)

朝な朝な君出で立たす玄關に小まき
手をつき並ぶ子供等(井須勝子)

初夏の朝はよろしも縁に居て何も思
はず子に乳のます(北島静美子)

271
95

終

